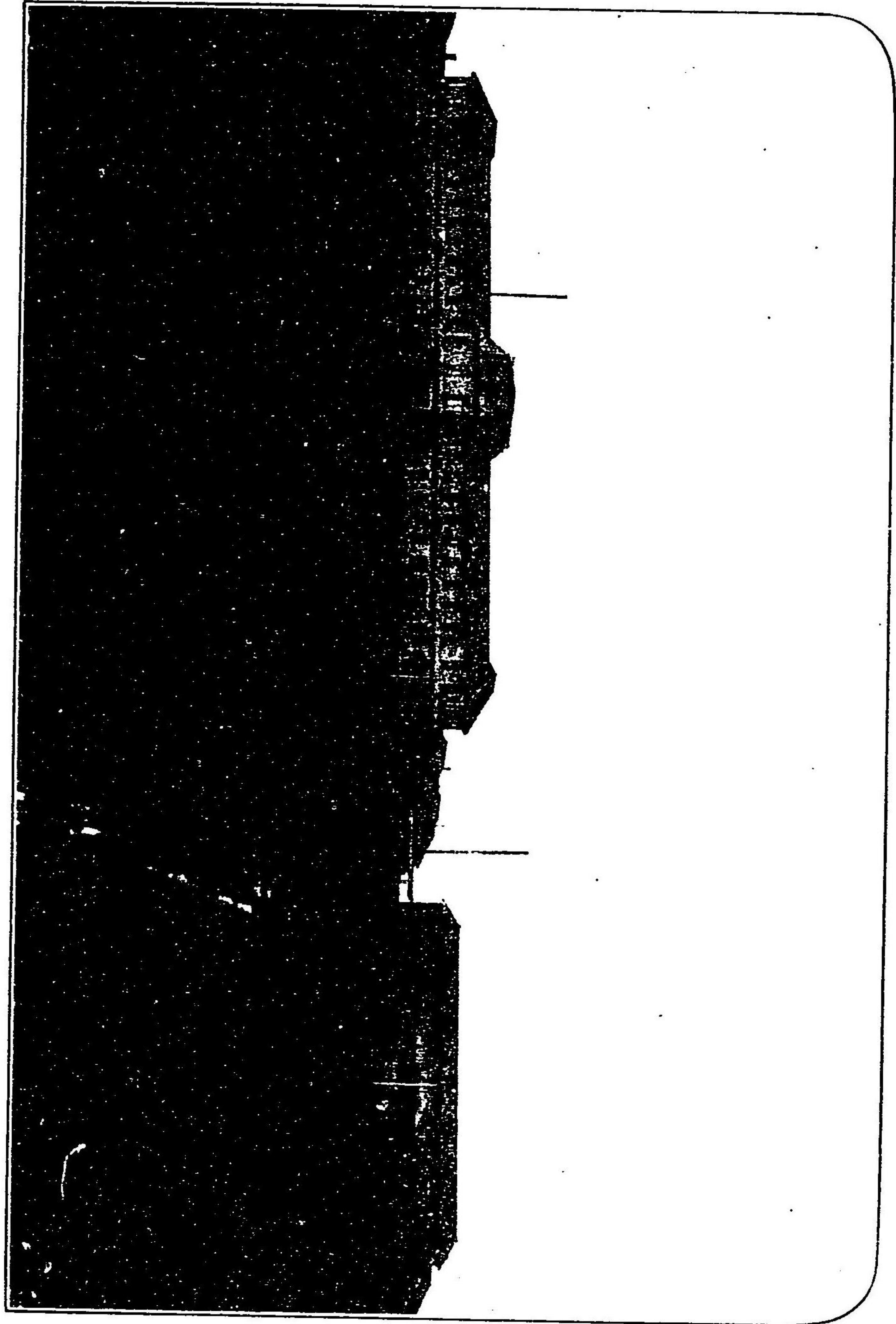


水產講習所一覽

自明治三十六年七月
至明治三十七年六月

220
611





水産講習所 一覽

水産講習所 寄贈本



一頁	一 寄贈本	四二
四	二 寄宿舍	四三
四	三 圖書保管及借覽規程	四四
六	四 本所敷地并建物	四八
七	五 養舍	五一
八	六 實習ニ關スル設備	五二
八	七 漁撈科	五三
八	八 製造科	五四
八	九 養殖科	五五
一四	十 第四章 實習	五六
一六	一 本所實習	六五
二〇	二 所外實習	六〇
二〇	三 氣象觀測	六〇
四一	四 第五章 生徒	
一四	一 水産講習所傳習規則	
一六	二 遠洋漁業練習生規程	
二〇	三 水産講習所傳習規程	
四一	四 實習規程	
八	五 商議委員規程	
八	六 職員	
一四	第二章 規則及規程	

目次

一 在學生徒姓名……………六一

二 在學生徒府縣別……………六八

三 在學生徒年齡……………七二

四 遠洋漁業練習生乘船表……………七三

五 卒業生及其就職……………七四

六 卒業生徒狀況……………九九

第六章 試驗部

附

水產講習所學友會規則……………一〇五

學 年 曆 (自明治三十七年九月十一日至同三十八年七月十日)

明治三十七年九月十一日	學 年 始	(第一學期始)
同 九月二十三日	休 業	(秋季皇靈祭)
同 十月十七日	同	(神嘗祭)
同 十一月三日	同	(天長節)
同 十一月廿三日	同	(新嘗祭)
同 十二月廿四日	第一學期終	
同 十二月廿五日	冬季休業始	
明治三十八年一月七日	冬季休業終	
同 一月八日	第二學期始	
同 一月三十日	休 業	(孝明天皇祭)
同 二月十一日	同	(紀元節)
同 三月 日	同	(春季皇靈祭)

學年曆

同	三月二十二日	紀念日
同	三月三十一日	第二學期終
同	四月一日	第三學期始
同	四月三日	休業 (神武天皇祭)
同	七月十日	學年終 (第三學期終)
同	七月十一日	夏季休業始
同	九月十日	夏季休業終
每日	曜日	休業

水産講習所

第一章 沿革及組織

本所、明治三十年四月開設シ水産ニ關スル學理ト技術トヲ授ケ諸般ノ試験ヲ行ヘ
 而シテ本所ハ日本水産會ノ設立セル水産傳習所在學ノ生徒ヲ引繼キタルヲ以
 テ其沿革ヲ摘録スルニ左ノ如シ

明治二十二年一月大日本水産會ハ水産教育ノ必要ヲ主唱シ寄附金ヲ以テ水産傳
 習所ヲ東京京橋區木挽町厚生館内ニ假設シ○同年七月日本橋區箱崎町ニ移轉シ
 後數月ニシテ又芝區三田四國町ニ轉セリ○明治二十六年五月農商務省ハ一ケ年
 金六千五百圓ヲ交附シテ生徒ノ養成ヲ囑托シタルヲ以テ更ニ費舍ヲ三田四國町
 二番地ニ新築シテ修業年限ヲ三ケ年トシ教務ヲ擴張セリ○明治二十七年一月文
 部省ハ徵兵令第十三條ニ依リ官公立尋常中學校ト同等以上タルコトヲ認定ス○
 同年九月卒業生ヲシテ漁船々員タルノ資格ヲ得セシムル爲メ商船學校ト聯絡シ

特別入學ノ制規ヲ定ム○明治二十九年十二月文部省ハ水産科教員ノ養成ヲ囑托シ全國ヨリ十五名ヲ撰拔入學セシメタリ○同年第九議會ニ於テ衆議院ハ水産講習所ノ官設ヲ建議シ○明治三十年農商務省ハ其費用ヲ第十議會ニ請求シ官設トナシタルニ依リ水産傳習所ハ茲ニ三月十一日限り閉所セリ

明治三十年三月二十二日勅令第四十七號ヲ以テ水産講習所ノ官制ヲ發布セラレ次テ諸規則ヲ定メ講習科入學ノ程度ヲ尋常中學第三學年級修業以上トシ修學ヲ三箇年トシ其第三學年ニ於テハ漁撈製造養殖ノ一科ヲ專攻セシムルノ制ヲ設ケ別ニ現業科ヲ置キテ實業者若クハ其子弟ノ就學ニ便ナラシメ又講習科卒業生ニシテ尙深ク既修ノ學科中一二ノ科目ニ就キ研究セント欲スルモノ、爲メニ研究科ヲ設ケ修業ヲ一ケ年以内トシ舊水産傳習所ノ養舎ニ營繕ヲ加ヘテ之レヲ開設シ藤田四郎所長トナル○明治三十一年三月教官ヲ會合シテ講習科ノ傳習要項ヲ定ム此月葦原清風所長トナル○同年六月農商務省ハ遠洋漁業練習生規程ヲ定メテ生徒ヲ募集シ本所ニ於テ其授業ヲ開始ス○此月研究科ノ修業年限ヲ三ケ年以内トシ尙遠洋漁業練習生ヲ本所ノ研究生ト爲ス○同年七月現業科細則及傳習要項ヲ定メ同九月初メテ

罐詰及魚油、魚蠟、沃度、製造ノ現業科生徒ヲ募集ス此月竹内正志所長トナル○同年十月官制及庶務規程ヲ改正ス○同年十一月牧朴眞所長トナル○同三十二年一月文部省ハ本所講習科ヲ文官任用令第三條ニ依リ官公立中學校ト同等以上ノモノト認定シテ之ヲ告示セリ○同年十一月巾着網漁業ノ現業生徒ヲ募集ス○明治三十三年一月本所ノ規則ヲ更訂シテ講習科ヲ本科ト稱シ中學校卒業ノ程度ニ依リ漁撈、製造、養殖中ノ一科ヲ撰ミテ生徒ノ入學ヲ許シ又別ニ遠洋漁業練習科ヲ置キ遠洋漁業練習生規程ニ依リテ採用セラレタル生徒ノ養成ヲナスト共ニ從來ノ學期及學年ヲ變更シ毎年九月ヲ以テ學年ノ始トセリ○同年三月勅令第七十二號ヲ以テ官制第二條中改正○同年六月神奈川縣下小田原町ニ所外製造實習所ノ建築ニ着手シ同年七月其工ヲ竣ヘ同八月開場式ヲ舉行ス○同年九月深川區越中島ニ本所養舎ノ新營ニ着手シ三十六年三月其工ヲ竣ユ現在ノ養舎卽是ナリ○同年九月漁撈實習ノ爲メ帆船ノ新營ヲ府下石川島造船所ニ依囑シ翌三十四年四月其進水式ヲ舉行シ快鷹丸ト名稱ス○同年七月ヨリ漁撈科第三學年生徒ヲ乘組マシメ各種漁業ノ實習ヲナサシム○同年四月勅令第四十二號ヲ以テ官制第二條中改正ス○同年六月初テ鯉節其他節類

現業科生徒ヲ募集ス○三十五年四月文部省ヨリ水産教員養成ノ囑托ヲ受ケ全國ヨリ撰出ノ生徒十名ノ入學ヲ許ス○同年五月初メテ本科生徒中卒業後教員志望ノモ
 ノへ實業教員養成規程ニヨリ學資ヲ補給ス○同年六月農商務省ヨリ地方水産試験
 場講習所職員講究會授業ノ囑托ヲ受ク○同年九月現在ノ饗舍ニ移轉ス○三十六年
 二月千葉縣下沖ノ島ヲ同八月鷹ノ島ヲ本所ノ所管トセリ○同十月第五回内國勸業
 博覽會ニ在リシ冷蔵庫ヲ本所ニ引繼キ三十七年六月之ヲ移築セリ○三十六年十二
 月露國萬國水産博覽會ヨリ本所出品ニ對シテ名譽謝狀ヲ贈與セラレ○是月官制ヲ
 改正シ專任ノ所長ヲ置ク松原新之助所長トナル○三十七年二月處務規程ヲ改正シ
 更ニ處務細則及試験部規程ヲ定メテ事務ノ分掌ヲ明ニセリ○同三月傳習規則及傳
 習規程ヲ改正ス○同四月千葉縣下元鹽業調査所津田沼製鹽試驗場ヲ引繼キ本所ノ
 實習場トセリ

二、官制

勅令第四七號明治三十年三月二十二日
 勅令第二八九號明治三十一年十月二十二日改正
 勅令第三三六號明治三十六年十二月四日改正

第一條 水産講習所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ水産ノ傳習及試験ニ關スル事務ヲ

掌ル

第二條 水産講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長	一人
技師專任	五人
教授專任	三人
技手專任	九人
助教專任	四人
書記專任	五人

第三條 所長ハ技師又ハ教授ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ受ケ所中全

般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ受ケ所務ヲ分掌ス

第五條 教授ハ奏任トス上官ノ指揮ヲ受ケ教授ヲ掌ル

第六條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス

官制

- 第七條 助教ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助ク
- 第八條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
- 第九條 農商務大臣ハ講習上ノ須要ニヨリ水産講習所ニ商議委員ヲ設クルコトヲ得

三、處務規程

(農商務省訓令第四十號明治三十一年十一月二十八日)
第三號同 三十七年一月二十三日改正

水産講習所處務規程

- 第一條 水産講習所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管事務ノ處理ニ付キ其責ニ任ス
- 第二條 水産講習所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ之ヲ處分セシムルコトヲ得
- 第三條 水産講習所長ハ事務處理ノ爲メ經伺ノ上所中處務細則又ハ講習及試験ニ關スル規程ヲ設クルコトヲ得
- 第四條 水産講習所長ハ講習生ノ募集人員ヲ定メ農商務大臣ノ承認ヲ請フヘシ

- 第五條 水産講習所長ハ講習及試験ノ成績ヲ審査編纂シ毎年一回農商務大臣ニ報告スヘシ

但臨時必要ト認ムルモノハ其都度報告スヘシ

- 第六條 水産講習所長ハ卒業シタル生徒ニ交付スヘキ證書ニ署名スヘシ
- 第七條 水産講習所長ハ其ノ主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得
- 第八條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ水産局長ヲ經由スヘシ

四、商議委員規程

農商務省訓令第十一號 (明治三十年四月十九日)

- 第一條 水産講習所官制第九條ニヨリ水産講習所ニ商議委員ヲ置ク
- 第二條 商議委員ハ左ノ人員ヲ以テ之ニ充ツ

農商務省高等官

一名

海軍省文部省逓信省又ハ其所屬高等官

四名以内

水産ノ經歷アルモノ

五名以内

- 第三條 商議委員ノ會議ニ附スベキモノハ講習科目及講習ニ關スル重要ノ諸規則

處務規則 水産講習所處務規程 商議委員規程

其他所長ニ於テ必要ト認ムル事項トス

第四條 商議委員會ハ農商務大臣ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

第五條 商議委員會ハ所長之ヲ開キ其議案ヲ提出スルモノトス

但シ商議委員ノ意見アルトキハ之ヲ議案トナスコトヲ得

第六條 商議委員會ノ議事ニ關スル規程ハ委員會ニ於テ之ヲ議定スルコトヲ得

第七條 商議委員會ノ議決ハ所長ヨリ農商務大臣ニ報告ス可シ

五、商議委員

東京帝國大學理科學教授

理學博士 箕作 佳吉

水路部長

海軍少將 肝付 兼行

商船學校長

豫備海軍大佐 平山藤次郎

貴族院議員 田中 芳男

榎山半三郎

六、職員

所長

技師

松原新之助

(一)傳習部

部長

技師

理學士 吉岡哲太郎

主任心得

技手

川合角也

漁撈論(材料論、防腐法)

技師

理學士 吉岡哲太郎

應用動物學

同

理學士 藤田 經信

漁獲物處理法

同

農學士 伊谷以知二郎

應用機械

教授

內村達次郎

漁撈論

技手

川合角也

漁船論

同

小瀬次郎

法規經濟

講師

農商務書記官 法學士 松崎 壽三

漁船論(造船學)

同

工學士 橫田 成年

海洋學

同

華族女學校教授 田中阿歌麿

航海術運用術

同

商船學校教諭 小關 三平

商議委員 職員

應用植物學

氣象學

外國語

數學簿記

法規

救急療法

漁撈論

快鷹丸運轉士

漁撈

快鷹丸事務長

同

囑托

理學博士

岡村金太郎

中央氣象臺技手

井口龍太郎

同

齊藤恒太郎

同

池上泰次郎

同

高橋順平

同

北村銀平

同

中村利吉

○實習船

技手

黑田九萬男

助教

下田奎一

書記

大橋元次郎

○製造科

主任

技師

製造化學、化製品、冷藏法、化學

理學士

伊谷以知二郎

吉岡哲太郎

應用動物學

化製品

食品

應用機械

分析微生物

食品

食品

食品

出征中

法規經濟

應用植物學

外國語

簿記

同

同

同

教授

同

技手

同

同

同

講師

囑托

同

技師

理學士

藤田經信

挖川温

伊谷以知二郎

內村達次郎

塚本道遠

松崎正廣

田和駒吉

伊笠茂松

佐々木繁太郎

松崎壽三

岡村金太郎

齊藤恒太郎

池上泰次郎

藤田經信

主任

職員

○養殖科

十一

蕃殖保護

化學

鹹水養殖、應用動物學

微生物學

淡水養殖

法規、經濟

鹹水養殖、應用植物學

簿記

圖書

同

同

同

教授

助教

講師 農商務書記官

同

囑托

同

松原新之助

理學士 吉岡哲太郎

理學士 藤田經信

農學士 塚本道遠

農學士 日暮忠

法學士 松崎壽三

理學博士 岡村金太郎

池上泰次郎

高島信

主任

出征中

○生徒取締

主任

書記兼助教

書記

技師

宮崎賢一

山田德助

伊谷以知二郎

衛生事項囑托

○圖書掛

主任

○標本掛

主任

(二) 試驗部

部長

技手

田和駒吉

北村銀平

技師

吉岡哲太郎

技師

藤田經信

技師

沓川温

技手

小野辰次郎

(三) 庶務掛

主任

書記

書記

教授

西山小太郎

石原重資

内村達次郎

機械監督

職員

十三

第二章 規則及規程

一、水産講習所傳習規則

農商務省告示第九十號明治三十七年四月改正
明治三十年四月制定同三十三年一月及九月改正追加
農商務省告示第九十號明治三十七年四月改正

- 第一條 本所ハ水産ニ關スル學理及技術ノ講習ヲ爲ス
- 第二條 本所ニ本科、遠洋漁業科、研究科及現業科ヲ置ク
- 第三條 本科ハ漁撈、製造及養殖ノ三科ニ分チ各科ニ必要ナル學理技術ヲ專修セシメ其ノ修業年限ヲ三箇年トス
- 第四條 遠洋漁業科ハ本所實習船又ハ其ノ他ノ船舶ニ乘組ミ遠洋漁業ニ關スル技術ヲ練習セシメ其ノ修業年限ヲ三箇年トス但シ修業年限ハ時宜ニヨリ之ヲ伸縮スルコトアルベシ
- 第五條 研究科ハ既修學科ノ蘊奧ヲ攻究セシメ其ノ修業年限ヲ三箇年以内トス
- 第六條 現業科ハ漁撈、製造、養殖ノ三科中種目ヲ限リ專ラ技術ヲ習得セシメ其ノ修業年限ヲ一箇年以内トス但シ其ノ種目ハ水産講習所長之ヲ定ム

業年限ヲ一箇年以内トス但シ其ノ種目ハ水産講習所長之ヲ定ム

第七條 本所ハ授業料ヲ徴收セス

第九條 學年ハ七月十一日ニ始マリ翌年七月十日ニ終ル

第九條 入學志願者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一、本科ニ於テハ年齢滿十七歳以上ニシテ中學卒業若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノ

二、遠洋漁業科ニ於テハ遠洋漁業練習生規程ニヨリ採用セラレタルモノ又ハ本所漁撈科卒業生

三、研究科ニ於テハ本科ノ卒業生

四、現業科ニ於テハ二箇年以上水産ノ實業ニ従事シタルモノ若ハ其ノ子弟ニシテ年齢二十年以上三十年以下ノモノ

第十條 本科ヲ卒ヘタルモノニハ卒業證書、遠洋漁業科又ハ研究科ヲ卒ヘタルモノニハ證明書、現業科ヲ卒ヘタルモノニハ修業證書ヲ授與ス

第十一條 本科生徒ニシテ學術優等品行方正他ノ模範トナルヘキモノハ特待生ト

ナシ學資ヲ補給スルコトアルヘシ

第十二條 本所ノ規則告示其ノ他命令ニ違反シ若ハ風儀ヲ紊ス等ノ行爲アル者ハ其ノ情狀ニヨリ懲罰ヲ加フ

第十三條 學業ヲ怠リ成業ノ見込ナキ者ハ之ヲ除名ス

第十四條 本規則施行ニ關スル規程ハ水産講習所長之ヲ定ム

附 則

第十五條 本規則ハ明治三十七年七月十一日ヨリ之ヲ施行ス但シ入學ニ關スル規定ハ明治三十七年度募集ノモノニ之ヲ適用ス

一、 遠洋漁業練習生規程

農商務省告示第十二號
明治三十一年五月六日制定同三十三年九月改正
農商務省告示第九十二號明治三十七年四月改正

第一條 遠洋漁業練習生ハ水産習所本科漁撈科卒業生又ハ之レト同等以上ノ學術技能ヲ有スト認ムル者ヨリ撰拔採用ス

第二條 前條ニ依リ採用セラレタル者ハ水産講習所遠洋漁業科ニ於テ遠洋漁業ニ關スル學術技能ヲ練習セシムルモノトス但シ農商務大臣ニ於テ外國ノ船舶ニ乗

組ヲ命シタルトキ又ハ外國ニ派遣ヲ命シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但シ書ノ場合ニ於ケル練習ノ科目方法ハ其ノ都度之ヲ定ム

第三條 遠洋漁業練習生ハ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外其ノ修業年限ヲ三年トス

第四條 遠洋漁業練習生採用ノ員數時期及本規程ニ定メサル出願ノ手續其ノ他之ニ關シ必要ナル事項ハ便宜之ヲ定ム

第五條 遠洋漁業練習生ノ志願者ハ第一號書式ニ依ル願書ニ履歷書及醫師ノ體格検査ヲ經タル證明書ヲ添ヘ農商務大臣ニ差出スヘシ

第六條 遠洋漁業練習生ニ採用セラレタルトキハ一週間以内ニ第二號書式ニ依ル證書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第七條 遠洋漁業練習生保證人ハ身元正シク相當ノ財産アル者タルコトヲ要ス保證人破産シ又ハ死亡シ其ノ他保證人ニ適セサル事故發生シタルトキハ更ニ他

ノ保證人ヲ定メ遲滯ナク之ヲ届出ヘシ

第八條 遠洋漁業練習生ニハ其ノ修業年限間相當ノ月手當金ヲ支給ス但シ一時手當金ヲ以テ之ニ代フルコトアルヘシ

外國ニ派遣ヲ命シ又ハ外國ニ於テ旅行ヲ要スル調査ヲ命シタルトキハ前項ノ外別ニ旅行手當金ヲ支給スルコトアルヘシ
手當金ノ額及其ノ支給方法ハ隨時之ヲ定ム

第九條 遠洋漁業練習生ニシテ修業年限ヲ了ヘタル者ニハ其ノ成績ヲ考查シ修業證書ヲ下付ス

第十條 農商務大臣ハ法規ニ違背シ若ハ命令規則ヲ遵守セサル者又ハ成業ノ見込ナキ者其ノ他相當ノ事由アリト認ムル者ニ對シテハ遠洋漁業練習生ヲ解免シ又ハ手當金ノ支給ヲ停止若ハ減少スヘシ其ノ法規ニ違背シ若ハ命令規則ヲ遵守セサルトキ又ハ怠慢若ハ不品行ニシテ解免セラレタルトキハ既ニ支給シタル手當金ノ全部又ハ一部ヲ本人又ハ保證人ヨリ辨償セシムヘシ
第一號書式

遠洋漁業練習生志願書

私儀遠洋漁業練習生志願ニ付御採用相成度此段奉願候也

年 月 日

族籍住所職業誰子弟

本人 姓 名 印

生年月日

族籍住所職業

保證人 姓 名 印

農商務大臣爵氏名殿

第二號書式

印紙

證

私儀遠洋漁業練習生ヲ命セラレタルニ就テハ御規則命令等堅ク遵守可致ハ勿

遠洋漁業練習生規程

論萬一規程第十條ニ依リ手當金ノ償還ヲ命セラレタル場合ニハ本人又ハ保證人ニ於テ速ニ償還可致候也

年 月 日

族籍住所職業誰子弟

本人 姓名 印

族籍住所職業

保證人 姓名 印

農商務大臣爵氏名殿

三、水産講習所傳習規程

第一章 總 則

第一條 本所ニ於テハ水産ニ關スル學理及技術ヲ授ク

第二條 本所ニ本科遠洋漁業科、研究科及現業科ヲ置ク

第三條 本科ニ於テハ漁撈、製造及養殖ニ關スル學理及技術ヲ學修セシム

第四條 遠洋漁業科ニ於テハ遠洋漁業ニ關スル技術ヲ練習セシム

第五條 研究科ニ於テハ既修學科ノ蘊奧ヲ攻究セシム

第六條 現業科ニ於テハ漁撈、製造及ヒ養殖ニ關シ種目ヲ限リ其ノ實技ヲ習得セシム

第七條 修業年限ハ本科及遠洋漁業科ハ各三箇年、研究科ハ三箇年以内、現業科ハ一箇年以内トス

第八條 各科募集ノ人員時期其他募集ニ關シ必要ナル事項ハ毎年之ヲ定メ廣告スヘシ

第二章 本科規程

一、學科課程

第九條 本科ハ一箇年ヲ以テ一學年トス其ノ學科及課程左ノ如シ

水産講習所傳習規程

		養殖科		
學科目	學年	第一學年	第二學年	第三學年
淡水養殖	三週時		二	不定時
鹹水養殖	三週時		二	不定時
應用動物	三週時		三	不定時
應用植物	三週時		三	不定時
應生菌	三週時		三	不定時
發洋生	三週時		二	不定時
海生	三週時		三	不定時
化學	三週時		四	不定時
法外	三週時		一	不定時
圖規	三週時		四	不定時
經濟及簿	三週時		二	不定時
齒語記	三週時		四	不定時
計		二四	二二	
實驗及實習		第三學期二回	二回	不定時
動物植物學		(第二學期二回 第三學期二回)	一回	
植物學		二回	一回	
動物學		二回	一回	
藻類				
菌類				
養殖				

數學ハ代數幾何三角術圖畫ハ自在畫外國語ハ英語トス

二、學年學期及休業

第十條 學年ハ七月十一日ニ始マリ翌年七月十日ニ終ル
 第十一條 本科ノ學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ九月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至リ第二學期ハ翌年一月八日ヨリ三月三十一日ニ至リ第三學期ハ四月八日ヨリ七月十日ニ至ル

第十二條 休業日左ノ如シ

- 一日 曜日
 - 一大祭及祝日
 - 一冬季休業 自十二月二十五日至翌年一月七日
 - 一紀念日 三月二十二日
 - 一春季休業 自四月一日起至四月七日
 - 一夏季休業 自七月十一日至九月十日
- 水産講習所傳習規程

第十三條 實習ハ休業中ト雖時宜ニヨリテ從事セシメ本科第三學年及遠洋漁業科ニ於テハ夏季休業ヲナサス

三、入學

第十四條 入學ハ學年ノ始メトシ學年ノ終リニ於テ入學試業ヲ行ヒ之ヲ許可ス

第十五條 入學志願者ハ三科中一科ヲ撰ヒ入學ノ後ハ轉科スルコトヲ許サス

第十六條 入學者ノ資格ハ中學卒業若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ年齡滿十七年以上ニシテ入學試業ニ合格シタルモノトス

第十七條 入學試業ハ中學卒業ノ程度ニヨリ左ノ學科ヲ試驗シ及體格檢査ヲ行フ

- 一 讀 書 國語漢文
- 一 作 文 漢字交リ文、日用文
- 一 動 物 學
- 一 植 物 學
- 一 物 理 學

一 化 學

一 地 理 本邦地理及外國地理

一 數 學 算術、代數、幾何、三角術

一 外 國 語 (英語)英文和譯、和文英譯、文法

一 圖 畫 自在畫

第十八條 入學志願者ハ第一號及第三號ノ書式ニ依リ各地方廳ヲ經由シ入學願書並ニ履歷書ヲ差出スヘシ但シ東京ニ於テ受験セントスルモノニアリテハ直ニ之ヲ差出スコトヲ要ス

第十九條 地方ニ於テ入學試業ヲ施行スル場合ニハ第五號書式ノ檢査書ニヨリ入學志願者ノ體格ヲ檢定ス

第二十條 退學シタルモノ再入學ヲ請フトキハ證議ノ上學年ノ始メニ於テ原級以下ニ編入スルコトアルヘシ

四、在學

第二十一條 入學ノ許可ヲ受ケタルモノハ其年九月十日迄ニ第四號書式ノ在學證

書ヲ差出スヘシ

第二十二條 保證人ハ二人トシ内一人ハ父兄親戚又ハ其入學者ニ學資ヲ支給スルモノ他ノ一人ハ東京市ノ公民タルヲ要ス

第二十三條 保證人死去シ若ハ轉住スル等ノコトアルトキハ速ニ之ヲ改メ轉居旅行改印等ノコトアルトキハ其都度直ニ届出ツヘシ

第二十四條 入學ノ許可ヲ受ケタルモノ第二十一條ノ成規ヲ履行セサルトキハ在學スルヲ得ス

五、 缺席、缺課

第二十五條 疾病其他ノ事故ニヨリ缺課、缺席セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ通學生ハ保證人連署寄宿生ハ生徒取締ノ證明ヲ得テ之ヲ届出ヘシ

但疾病ニ因リ引續缺席一週間以上ニ涉ルトキハ通學生ニアリテハ本所ニ於テ適當ト認ムル醫師ノ診斷書寄宿生ニアリテハ本所囑托醫ノ證明書ヲ其ノ届書ニ添付スヘシ

六、 休學

第二十六條 疾病其他ノ事故ニヨリ一學期以上修學スルコト能ハサルモノト認ムルトキハ其ノ學年間休學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十七條 休學ノ許可ヲ得ントスルモノハ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ其ノ疾病ニ因ルモノハ本所囑托醫又ハ本所ニ於テ適當ト認ムル醫師ノ診斷書ヲ其ノ願書ニ添付スヘシ

第二十八條 休學者ハ次學年ノ始メヨリ原級ニ編入ス

但シ一年志願兵トナリ服役滿期後直ニ就學セントスルモノハ其學年ニ於テ原級ニ編入ス

七、 特待

第二十九條 學術優等品行方正ナルモノハ特待生トナスコトアルヘシ

第三十條 特待生ニハ學資ヲ補給ス

第三十一條 特待生ニシテ品行不良學業懈怠若ハ疾病ニ罹リ修業ニ堪ヘ難シト認

ムルトキハ其特待ヲ停止ス

三十

八、懲罰

第三十二條 規則若ハ命令ニ違反シ又ハ怠惰不品行其ノ他生徒タルノ本分ニ背クノ行爲アルモノハ懲罰ス

第三十五條 懲罰ヲ分チテ戒飭停學、放所トス

九、退學及除名

第三十四條 疾病又ハ其他ノ事故ニ因リ退學セントスルモノハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署願出ヘシ

第三十五條 左ノ事項ニ該當スルモノハ之ヲ除名ス

- 一 數々遅刻、缺課又ハ缺席スルモノ
- 二 一ヶ月以上無届缺席スルモノ
- 三 一學期間全ク出席セサルモノ
- 四 停學ノ處分三回ニ及フモノ

五 二學年間同一ノ學級ニ在リテ進級スルコトヲ得サルモノ
六 成業ノ見込ナキモノ

十、試業、進級及卒業

第三十六條 學科ノ試業ハ一學期間一回以上隨時ニ之ヲ行フ

第三十七條 實驗及實習ノ評點ハ平生ノ成績、勤怠及報告書ニ依リ之ヲ定ム

第三十八條 試業ノ評點ハ一百ヲ以テ定點トス

第三十九條 各學期ノ終ニ於テ其ノ學期間ニ於ケル學科及實驗實習ノ評點ヲ計算シ其ノ平均點ヲ以テ學期試業各學科及實驗實習ノ得點トス

第四十條 各學年ノ終ニ於テ當該學年中ノ學期試業各學科ノ得點ヲ平均シ之ヲ其學年各科目ノ得點トナス

第四十一條 學年ノ成績各學科ノ得點五十以上實驗實習ノ得點六十以上平均點六十以上ヲ得タルモノハ進級又ハ卒業セシム

但シ學科ノ得點ハ一科目ニ限リ四十點以上五十點未滿ノ得點アルモ進級又ハ卒業ヲ妨ケス

第四十二條 最終學年ノ試業ニ及シタルモノニハ卒業證書ヲ授與ス

第四十三條 在學中學業優等品行善良ナルモノニハ特ニ優等卒業證書ヲ授與ス

第三章 遠洋漁業科規程

第四十四條 遠洋漁業科生徒ハ遠洋漁業練習生トシテ採用セラレタルモノ及本所漁撈科卒業生ノ志願者ヨリ撰拔セラレタルモノトス

第四十五條 本科漁撈科卒業ノ資格ヲ有スル志願者ノ員數定員ニ超過スルトキハ試験ニ因リ許否ヲ決ス

第四十六條 遠洋漁業科ニ於テハ生徒ヲ本所實習船又ハ内國若ハ外國ノ漁船ニ乗込マシメ漁業航海運用其他遠洋漁業ニ必要ナル技術ヲ練習セシム

但シ時宜ニヨリ期間ヲ定メ本所ニ於テ必要ナル技術ヲ練習セシムルコトアルヘシ

第四十七條 外國ノ漁船ニ乗組マシムルモノ又ハ特ニ練習ヲ要スルモノニ就テハ其ノ修業年限ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十八條 特別ノ技能アル者ニ關スル修業年限及練習ノ方法ハ必要ニ應シ隨時

之ヲ定ム

第四十九條 疾病其ノ他止ヲ得サル事由ニ因リ修業ニ堪ヘ難キ者ニ對シテハ期間ヲ定メテ休學ヲ命スルコトアルヘシ休學ノ期間ハ之ヲ修業年限ニ算入セス

第五十條 乗船實習中ハ毎月乗船月表ヲ調製シ船長ノ認印ヲ受ケ寄港ノ際之ヲ本所長ニ差出スヘシ

第五十一條 乗船實習中ハ漁撈日誌ヲ調製シ毎日ノ觀測操業漁況其ノ他必要ノ事項ヲ記入シ船長ノ認印ヲ受ケ實習終了ノ後之ヲ本所長ニ差出スヘシ

但シ實習中ト雖モ檢閲ノ必要アルトキハ其ノ提示ヲ命スルコトアルヘシ

第五十二條 下船中練習セシム可キ事項ハ隨時之ヲ定ム

第五十三條 修業ヲ完了シタルトキハ乗船月表漁撈日誌及成績ヲ考查シ證明書ヲ交付スヘシ但シ必要ニ應シ特ニ試業ヲ行フコトアルヘシ

第五十四條 本規程中ニ定ムルモノヲ除クノ外本科規定ヲ準用ス

第四章 研究科規程

第五十五條 研究科生徒ハ本科卒業生ノ志願者ヨリ之ヲ撰拔ス

第五十六條 入學志願者ハ學年ノ始ニ於テ第二號書式ニ依リ願書ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ

第五十七條 學術特ニ優等ナル研究生ニハ學資ヲ補給スルコトアルヘシ

第五十八條 研究生ハ教官ノ指導ヲ受ケ研究ニ從事スルモノトス

第五十九條 必要アルトキハ本所外適當ノ場所ニ於テ研究ニ從事セシムルコトアルヘシ

第六十條 研究ヲ結了シタルトキハ研究事項ニ付キ論文ヲ提出スヘシ

第六十一條 論文ヲ考查シ相當ノ資格アリト認ムルトキハ證明書ヲ授與ス

第六十二條 學資ノ補給ヲ受クルモノニシテ放所ニ處セラレ又ハ自己ノ便宜ニヨリ中途廢學シタルトキハ支給シタル學資ノ全部又ハ一部ヲ返納セシム

第六十三條 本規程中ニ定ムルモノヲ除クノ外ハ本科規程ヲ準用ス

第五章 現業科規程

第六十四條 入學者ハ二箇年以上水産ノ實業ニ從事シタルモノ若ハ其ノ子弟ニシテ年齡滿二十年以上三十年以下ノモノタルコトヲ要ス

第六十五條 入學志願者ハ本所規程第十八條ニ準シ出願シ第五號書式ノ體格検査書ヲ其ノ願書ニ添付スヘシ

第六十六條 入學志願者ノ員數ガ定員ニ超過スルトキハ其經歷ト地方ノ狀況ニヨリ許可ヲ決ス

第六十七條 實技ヲ習得セリト認メタルモノニハ修業期ノ終リニ於テ之ニ修業證書ヲ授與ス

第六十八條 本規程中ニ定ムルモノヲ除クノ外ハ本科規程ヲ準用ス

書式

第一號書式(用紙美濃紙)

入學願書

私儀御所本科何々科(現業科)へ入學(何々専修)志願ニ付御試業ノ上現業科ニハ御試業ノ上ヲ省ク(御許可被成下度別紙履歷書相添此段相願候也

本籍家族業

某男子弟等

年月日

何 某 印

三十六

水産講習所長某殿

第二號書式(用紙美濃紙)

入 學 願 書

一何々 (研究ノ事項)

私儀何年月御所何科卒業致候處尙前記ノ事項ニ就キ何年間在所研究致度候
間御詮議ノ上入學許可被成下度別紙履歷書相添此段相願候也

本籍族家業

某男子弟等

年 月 日

何 某 印

何年何月何日生

宿所(東京云々)

水産講習所長某殿

第三號書式(用紙美濃紙)

履 歷 書

學 業

一何年何月日何地官(公私)立何學校ニ入り何學科何學年級修業或ハ全科卒業

一何年月日何地何某ニ從ヒ何年間何學修業用書何々(卒業證書ヲ有スル者ハ其

寫及校長ノ證明書ヲ添ヘ實業ニ從事シタルモノハ其經歷ヲモ記入スベシ)

賞 罰

一何年月日何所ニ於テ何賞罰ヲ受ケタル事

右之通相違無之候也

年 月 日

何 某 印

第四號書式(用紙美濃紙)

(印紙貼用)

在 學 證 書

水産講習所傳習規程

三十七

私儀今般何々科へ入學御許可相成候ニ付テハ御規則等固ク遵守シ専心勉勵卒業ニ至ル迄猥リニ退學等致ス間敷候仍テ在學證書如件

本籍族家業

某男子弟等

年月日

何 某 印

何年何月何日生

宿所(東京云々)

右某今般入學御許可相成候ニ付テハ御規則等固ク相守ラセ且本人ニ係ル一切ノ事件ハ私共ニ於テ引受可申ハ勿論御所御趣意ノ旨ヲ體シ平素督勵可致候仍テ保證如斯候也

族籍職業(學生トノ關係)

保證人 何 某 印

何年何月何日生

宿所

族籍職業(學生トノ關係)

保證人 何 某 印

何年何月何日生

宿所

水産講習所長某殿

前書保證人某ハ當區公民ニ相違無之候也

何 區 長 印

第五號書式(用紙美濃紙)

體 格 檢 査 書

族籍某男子弟等

何 某

何年何月何日生

一體 格 (甲、乙、丙) 最モ強健ナルモノヲ甲トシ之ニ亞クモノヲ乙トシ現ニ疾患ナキモ身體薄弱ナル者若クハ著シキ病歴ヲ有スルモノヲ丙トス

一體 質 (強健、稍弱、弱) 特別ナル事項ハ其條件ヲ記ス

水産講習所傳習規程

- 一身 長 (何尺寸分)
- 一體 重 (何貫匁)
- 一胸 圍 (何尺寸分)常時、充盈、空虛及其差
- 一肺 活 量 (何千何百立方センチメートル)
- 一視 力 (何々)スネルレン氏ノ檢視法ニ依リ左右共某中心視力ヲ檢シ辨色力眼疾ヲモ檢査スベシ
- 一聽 力 (尋常、過敏、遲鈍)左右兩耳ニ就キ懷中時計ニテ可及的其聽取ノ最遠距離ヲ測定シ
- 一神 經 系
- 一呼 吸 器
- 一血 行 器
- 一皮 膚 其 他
- 一脊 柱
- 一齒 牙
- 一痘

一己往現在ノ疾病又ハ畸形
年 月 日

公立病院醫(病院ナキ地方ハ内務省免許醫)

何 某 印

四、實習規程

- 第一條 實習ハ本所及ヒ實習場實習船又ハ本所指定ノ場所若ハ船舶ニ於テ從事ニセシム
- 第二條 實習ノ事項及期限ハ學科課程ニ準據シ之ヲ定ム
- 第三條 實習ノ爲メ出張ヲ命シタルトキハ其往復ノ旅費ヲ支給ス
但遠洋漁業科生徒ニハ旅費ヲ支給セス
- 第四條 實習ニ付テハ擔當教官又ハ特ニ設ケタル監督者ノ監督ヲ受クベシ
- 第五條 各組ニ組長副組長各一人ヲ設ケ其ノ組員ニ對スル通達其他ノ實習ニ關スル諸般ノ整理ニ任セシム
- 第六條 實習中ハ規定ノ實習服ヲ着用スヘシ

實習規程 生徒心得

第七條 實習シタル事項ニ付テハ指定ノ期間内ニ其ノ報告書ヲ作成シテ擔當教官ニ出スヘシ

但遠洋漁業科生徒ニ在リテハ水産講習所傳習規程第五十條及第五十一條ニ依ル

第八條 實習中報酬手當ノ類ヲ贈與セントスルモノアルトキハ其事由ヲ所長ニ具申シ認可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ受領スルヲ得ス

五、生徒心得

第一條 本所々定ノ條規ニ準據シ學生ノ體面ヲ汚スカ如キ行爲アル可カラス

第二條 本所ノ制服及制帽ハ入學後一ヶ月以内ニ於テ調製シ之ヲ着用スヘシ

第三條 事故ニ依リ制服又ハ制帽ヲ着用スルコト能ハサル事情アルトキハ豫メ時

日ヲ限リ寄宿生ハ生徒取締通學生ハ保證人連署ヲ以テ願出許可ヲ受クヘシ

第四條 控所ノ外餐舍内ニ於テハ喫煙スヘカラス

第五條 通學生ハ許可ナクシテ寄宿舎ニ出入スヘカラス

第六條 告示ハ掲出ノ日ヨリ一般ニ了知シタルモノト認ムヘキカ故ニ常ニ揭示ナ

注意スヘシ

第七條 學術研究又ハ實習ノ爲メ出張ヲ命シタルトキハ出發歸所共ニ届出ヘシ

六、寄宿舎規程

第一條 寄宿生ハ生徒取締ノ監督ヲ受クヘシ

第二條 寄宿生ハ規律衛生等ニ關スル規約ヲ設ケ所長ノ認可ヲ經テ實踐スヘシ

第三條 寄宿舎ハ毎年九月十日ニ開キ翌年七月十一日ニ閉ツ

第四條 毎朝夕所定ノ時限或ハ臨時ニ人員點檢ヲ受クヘシ

第五條 寄宿生ハ左ノ時限ノ外ハ外出スルヲ許サス

一、平日ハ終業時後午後九時迄土曜日ハ午後十時迄

二、休業日ハ午前點檢後ヨリ午後十時迄

但事宜ニヨリ伸縮スルコトアルヘシ

第六條 外泊又ハ時附内ニ歸舎シ難キ事情アルモノハ豫メ保證人連署ヲ以テ願出

テ許可ヲ受クヘシ

但至急ヲ要スル場合ハ口頭又ハ書面ヲ以テ生徒取締ノ許可ヲ得後本條ノ手續

チナスヘシ

四十四

第七條 許可ナク歸舍ノ時限ニ後レ又ハ外泊シタルモノハ其事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ届出テ其處分ヲ待ツヘシ

第八條 入舍又ハ退舍セントスルモノハ規定ノ用紙ニ認メ保證人連署ノ上願出ツヘシ

第九條 管理上ノ便宜ニヨリ寄宿生ヲ數部ニ分チ各部ニ部長副部長各一人ヲ置キ寄宿舍生徒取締ノ指揮ニ從ヒ部内一般ノ取締ニ任ス

第十條 物品ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ其ノ情狀ニヨリ之ヲ修補又ハ辨償セシム

第十一條 寄宿舍食費等ハ毎月五日迄ニ生徒取締ノ檢證ヲ經テ支拂フヘシ期日ヲ經過スルモ拂入レサルトキハ其情狀ニヨリ退舍ヲ命ス

第十二條 外來人トノ面會ハ應接所ニ於テスヘシ

第十三條 舍内ニ於テハ和服ヲ用ウルコトヲ得

七、圖書保管及ビ借覽規程

(一) 圖書保管規程

第一條 本所ノ圖書ハ庶務掛ニ於テ主任ヲ定メ之ヲ保管ス

第二條 圖書ハ和書洋書ノ別ニ從ヒ各番號ヲ附シ點檢ニ便スヘシ

第三條 圖書原簿ヲ製シ之ニ書名番號種類冊數ヲ記載スヘシ

第四條 圖書出納簿ヲ製シ出入ヲ記載スヘシ

第五條 圖書ハ毎年春秋二期ニ原簿ト對照シ其有無ヲ點檢スヘシ

第六條 秋期點檢ノ際ハ圖書ヲ曝涼スヘシ

第七條 他官廳及外國ヨリ送附セル圖書ハ送附セル目錄ヲ製シ所長ニ供覽シ保存スヘキモノト否ラサルモノトヲ定メ且謝狀ヲ送ルヘキモノハ其手續ヲ爲スヘシ

第八條 中外ノ雜誌類ハ數部ヲ合シテ冊子トナシ圖書同一ニ保管スヘシ

第九條 傳習部及試驗部ニ平常備置クヘキ圖書ハ各部ニ主任ヲ置キ之ヲ保管セシムヘシ

但庶務係ニ借用證書ヲ差出スヘシ

第十條 各部備付ノ圖書ハ毎月末ニ庶務掛保管主任ノ點檢ヲ受クヘシ

圖書保管及借覽規程

四十五

第十一條 圖書ヲ修繕セントスルトキハ所長ノ許可ヲ請フヘシ
第十二條 圖書ヲ斷破シテ使用ニ堪ヘザルモノハ文書課ヘ報告シ廢棄ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條 定時圖書ノ點檢ハ保管主任其責ニ任ス

第十四條 他官廳ヨリ借入タル圖書ハ庶務掛ニ保管シ職員ニ貸付スル場合ハ圖書借覽規則ニ從フ

第十五條 本規程外ノ事項ハ總テ文書課ト協議ノ上取扱フヘシ

(二)圖書借覽規程

第一條 圖書ハ本所職員及囑托教員ニ限り借用ヲ許ス

但職員囑托員其資格ヲ失ヒタルトキハ五日以内ニ借用ノ圖書ヲ返付セシムヘシ

第二條 圖書ヲ借覽セントスルモノハ保管主任ニ就キ借用證書用紙ヲ受取り書名番號冊數ヲ記シ官氏名ヲ署シ捺印ノ上各部長ノ檢印ヲ受ケ保管主任ニ差出スヘシ

第三條 圖書借用期限ハ通常三十日間トス尙繼續セントスルトキハ監事ノ許可ヲ得ヘシ

第四條 平常各部ニ備置クヘキ書類ハ各部保管主任ヨリ證書ヲ差出シ無期限ニ借用スルコトヲ得

第五條 各部ニ圖書保管主任ヲ置キ借用中ノ圖書ヲ保管セシム

第六條 圖書ハ所外ニ携出スルコトヲ許サス但特ニ所長ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニアラス

第七條 平常各部ニ備置ク圖書ハ時々庶務掛保管主任ノ點檢ヲ受クヘシ

第八條 曝涼ノ節ハ一時各部備付ノ圖書ヲ返付セシム

第九條 圖書ハ所外ニ携出スルヲ得スト雖トモ所用ニテ至急調査ヲ要スル場合ハ特ニ監事ノ許可ヲ得ヘシ

第十條 辭書ノ類ハ一切所外ニ携出スルヲ許サス

第十一條 他廳ヨリ圖書借用ノ申込アルトキハ保管主任ハ所長及監事ヘ稟議ノ上許可ヲ定ムヘシ

第十二條 借用者圖書ヲ返納スルトキハ本人ニ證書ヲ返戻シ同時ニ出納張簿ニ返納ノ日子ヲ記載スヘシ

第十三條 借用者ハ其圖書保管ノ責ニ任ス

第二章 本所敷地並建物

明治三十年創設ノ當時ニ於テハ舊水産傳習所ノ建物ヲ充用シタリシモ狹隘ニシテ完全ノ設備ヲナスコトヲ得サリシヲ以テ明治三十二年其新營ヲ計畫シ地ヲ海邊ニ撰ムノ必要アルヲ以テ東京市深川區越中島ニ其位置ヲ定メ同年四月新營ニ着手セシカ土地埋立ノ必要アリシヲ以テ工事ノ進捗甚ク遅ク翌三十五年三月即チ滿四ヶ年ニシテ完成セリ敷地面積ハ一萬四百三十二坪餘ニシテ内繋船場壹千九百貳坪餘アリ家屋ノ總坪數ハ貳千五百九十五坪餘ニシテ教室、寄宿舎其他ノ配置、實驗室、實習場ニ於ケル設備ハ大要左ノ如シ

一、 齋 舎

本所ノ建築ハ勉メテ外形ノ修飾ヲ避ケ實用ト堅牢トニ重キヲ置キ通風採光ニ留意セシハ勿論教室ノ配置、教具及實驗並ニ實習器具機械ノ排列等ニ於テモ事業ノ狀態

ト教育及衛生上ノ論理トニ基キ之ヲ計營セリ

本館ハ二階建ニシテ教室、事務室、講堂ノ三ヨリ成リ教室ハ一室能ク六十人ヲ容ル、コトヲ得其數十四室アリ其他物理、化學ノ特別教室ヲ有シ又其一部ヲ標本室、圖書室、準基機械室等ニ充テ別ニ土中室ニケ所ヲ有シ標本ノ一部並ニ器具ヲ藏ム講堂ハ面積七十七坪ニシテ 聖影奉揚ノ裝置ヲナス各室ニハ暖房放熱器ヲ備ヘ冬季ト雖モ常ニ一定ノ溫度ヲ保タシムルノ裝置トナス

中央ノ一棟ハ平家造ニシテ實驗室ニ充ツ其半部ハ養殖並ニ細菌學ニ關スル實驗及實習ニ供シ他ノ半部ハ製造化學、分析化學及化學實驗室トシ各瓦斯、水道水ヲ引用シテ其作業ニ便ナラシム

實習場ハ平家造ニシテ漁撈製造ノ二ニ分チ其一部ヲ漁撈實習室ニ充テ網具、釣具、船具等ノ設計製作修補ノ場所トナシ他ノ一部ヲ製造ノ實習室トシ沃度、製鹽、油蠟、罐詰及汽罐室トシ煮熟、煎熬等溫熱ヲ要スルモノハ汽罐中ノ蒸氣ノ供給ニヨリ動力ヲ要スルモノハ汽關室ニ於テ發生セシムル電氣ヲ用ヒ又瓦斯水道水ノ供給ニヨリテ其作業ニ便ナラシム又別ニ第五回内國勸業博覽會ニ在リシ冷蔵庫ヲ移築シテ魚肉冷

藏ノ方法ヲ實習セシムル所トス

寄宿舎ハ二階建ニシテ自修室ト寢室トヲ兼ネ室ノ一部ヲ自修ニ他ノ一部ヲ寢臺ニ充ツ寢臺ハ床面上二尺五寸ノ高サニシテ上ニ藁布團ヲ敷キ下ヲ用具入トナシ前面ニ戸ヲ設ケ各自鍵ヲ用ヒテ閉鎖スルコトヲ得セシム又自修ノ爲メニハ中央ニ二人向合ノ卓子三個ヲ併列シ其側面ニ書籍ヲ容ル可キ棚ヲ設ケ一室六人ヲ定員トス一ノ會堂ヲ設ケ生徒ノ集會ニ便ニシ又學友會圖書室ヲ本舎内ニ設ク各室ニ暖房及ヒ電燈ヲ配置シ水道水ヲ引用ス其他攝養室小使室洗面所食堂浴室等ヲ設ケ浴室ニハ汽罐ヨリ蒸氣ヲ引用シテ日中作業ニ使用セシ蒸氣ノ餘熱ヲ供給セリ

繫船場ハ敷地ノ一隔ヲ區劃シ水閘ヲ設ケテ外海トノ交通ヲ遮リ練習用ノ端艇及漁艇ヲ繫留スル所トナス

運動場ハ寄宿舎ノ前面一千五百七十五坪餘ノ面積ヲ以テ之ニ充テ砂礫ヲ以テ地盛ヲナシ雨水ノ溜滯スルコトナカラシム場内ニハ陸上橋鞦韆震動横木棚鐵棒高手摺等ヲ設ケテ本所學生ニ必要ナル特殊ノ運動ヲナサシム

暖房ハ米國「ウエプスター」式ヲ採用シ各室ニ設備セル放熱機ニヨリテ室内ヲ暖メ「ボ

ンブノ作用ニヨリテ凝結水ヲ回收スルノ趣向トシニケ所ノ汽罐ニヨリ一ハ教室及
實驗室等主トシテ晝間使用スル場所ニ温熱ヲ供給シ其汽罐室ヲ本館ノ中央ニ設ク
一ハ夜間使用セル寄宿舎ニ供給スルモノニシテ晝間ノ實習ニ使用シタル蒸氣ノ餘
力ヲ以テ之ヲ供給ス

電燈及原動力ハ製造ノ作業ニ要スル蒸煮殺菌温熱ノ供給及暖房等ノ爲メ使用セル
汽罐ノ蒸氣ニヨリテ同一ノ汽罐室ニ備ヘタル發電機ヲ回轉シ又更ニ蓄電池ヲ設ケ
テ常ニ電氣ヲ蓄ヘ置キ以テ寄宿舎及其他ノ點燈ニ供シ又機械運轉ノ原動力トシテ
隨所ニ其動力ヲ應用シ又將來電氣ノ作用ニヨリテ成功スヘキ漂白分解等ノ事業ニ
モ應用センコトヲ期ス故ニ蒸氣電氣ハ極メテ經濟的ニ之ヲ使用セリ
構内ノ植樹ハ其場所ニ依リ風防火防日除波除等ノ目的ヲ以テ最モ海風ニ堪ユルモ
ノ又ハ堤防ノ堅固ヲ補クルモノ等ヲ撰ビタリ故ニ一樹一卉ト雖モ苟モ植ヘタルモ
ノナシ

二、實習ニ關スル設備

本所ハ其業態ニ依リ當所ニ於テノミ實習セシムヘカラサルモノ多キヲ以テ各科其

目的ノ異ナルニ從ヒ特殊ノ設備ヲセリ

(一) 漁撈科

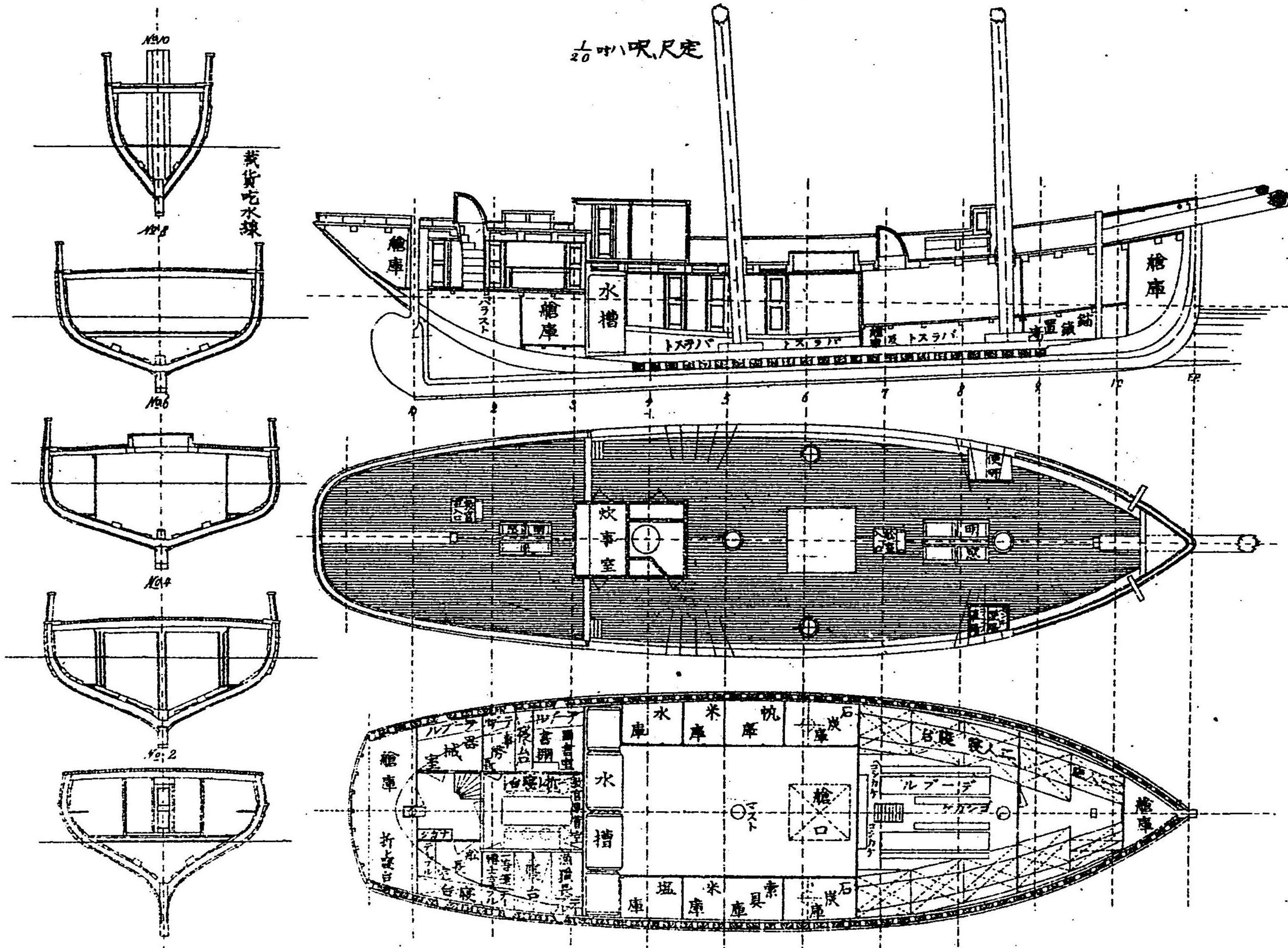
漁撈科ニ於テハ明治三十三年四月實習用帆船ノ建造ニ着手シ翌年四月其工ヲ竣ヘ快鷹丸ト命名ス爾來漁撈科ノ生徒ヲ搭乘シテ實習ニ從事セシメ千葉縣安房郡館山ヲ定繫港トナシ陸上ニハ漁撈假實習場ヲ設ケ一般ノ漁具船具等ヲ備ヘ氣象觀測漁具船具等ノ製作設計及修理等ノ實習ヲナサシム

快鷹丸

本船ハ本所生徒漁撈實習ノ目的ニヨリテ營造シタル「スクーナー」形帆船ニシテ總噸數百三十七噸六六登簿噸數百二十九噸四〇長サ九十三呎六吋幅二十五呎六吋深サ九呎五吋係數四・五速力凡十二浬半ニシテ其構造ハ各種ノ漁獵ニ適應セシメ且學習ニ便ナラシムルガ爲メ内外國漁船ノ長所ヲ採リ各種ノ經驗ヲ參酌シテ先ツ速力ヲ迅速ナラシムルカ爲メ船體ノ下部ヲ尖銳ニシ且動搖ヲ輕減スルノ方法ヲ採レリ船室ヲ甲板下ニ設ケ甲板上ヲ廣クシテ操業ノ便ヲ計リ艙ヲ教官室、測量器室、圖書室、火藥室トシ艙ヲ水夫室、學生室、實驗室トシ中央部ヲ艙庫トナシ之ヲ食料庫、食鹽庫、帆庫、船

丸鷹快船習實

1/20 吋尺定



船體		總噸數
深	九尺貳寸五分	壹百三十七噸 六六
幅	貳拾肆尺	
長	九拾壹尺五寸	

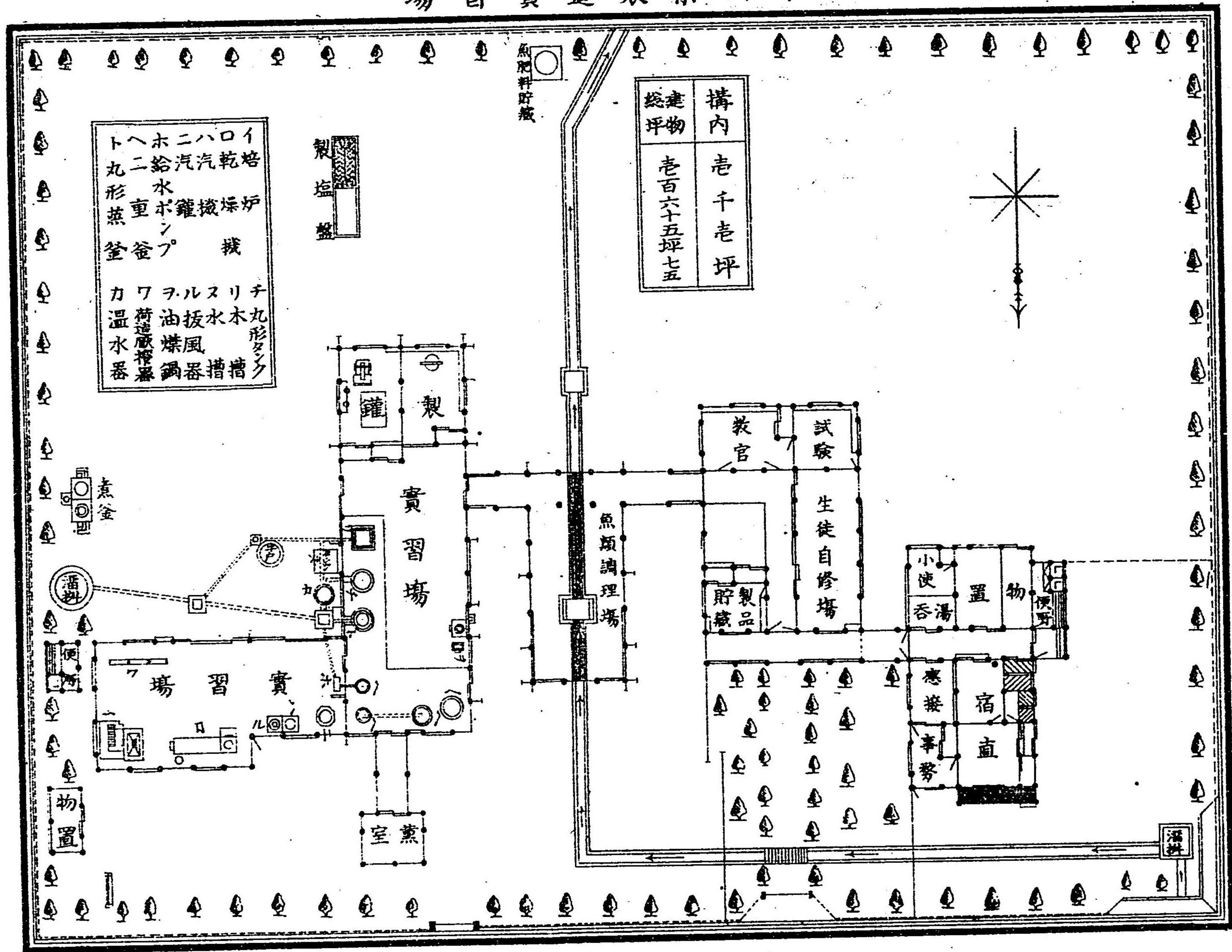
具庫、石炭庫、漁具庫、氷室、雜品庫及漁獲物貯藏庫ニ分チ其他食料水廿六噸ヲ貯藏スル
 コトヲ得ルノ構造トシ漁艇並ニ漁具ノ揚卸ヲ容易ナラシムル爲メ船舷ヲ低クシ「チ
 ンプレート」ヲ内側ニ取付ケタリ、復原力ヲ強クシテ遠洋ノ航海ニ堪ヘシメンカ爲メ
 船幅ヲ廣クシ時化ヲ凌キ操船ニ便センカ爲メ操舵機ヲ「スクリユーステアリング」ギ
 アー「トナシ」シートトラベラー「三」ベーター「ト」バツフアー「ヲ」取付テ「ブーム」轉替ノ際ニ
 起ル「ブーム」ノ破損ヲ豫防シ「ダイアゴナル」アイオンプレート「ヲ」對テ取附ケテ船體ノ
 堅牢ヲ計レリ

其全體ノ形態及構造ハ凡左ノ如シ

形態

- | | |
|---------|-------|
| 一 甲板層數 | 一 層 |
| 一 外板ノ材料 | 木 |
| 一 船骨ノ材料 | 木 |
| 一 橋ノ數 | 二本 |
| 一 網具ノ裝置 | スクーター |

小田原製鐵實習場



製造科ニ於テハ本所ニ於テ應用化學、細菌學等ト相待テ學理上ノ教授ヲナスト雖モ東京ニ於テハ魚價ノ不廉ナルノミナラズ適當ナル製造原料ヲ得ルコト能ハサルヲ以テ技術ヲ練熟セシムル爲メ他ニ現業ノ實習場ヲ設ク

小田原實習場

(二) 製造科

- 一 登簿噸數 百二十九噸四〇
- 一 總噸數 百三十七噸六六

- 一 船舶積量測度方法ニ依ル量噸甲板下ノ長サ九十一尺五寸
- 一 船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面マテノ幅二十四尺
- 一 内張板ノ上面マテノ深サ九尺二寸五分

- 一 船首ノ形狀 斜形
- 一 船尾ノ形狀 橢圓形
- 一 尺度

小田原實習場ハ神奈川縣下小田原町ニ設ク一定ノ期間學生ヲ同所ニ出張セシメテ技術練習ノ傍自ラ經濟ノ途ニ當リ或ハ事業設計ノ任ニ當ラシメ又其設備ノ程度モ民間現時ノ度合ニ適合セシメシコトヲ圖リ機械ノ動力ハ手働ヲ主トシ汽力ハ一個ノ豎立汽罐ヲ備フ水ノ供給ハ必用ナルヲ以テ構内ニ流水ヲ引キ魚類其他ノ洗滌ニ便ニセリ本場ハ明治三十四年四月起工シ同年八月竣工セリ其設備ノ大要ハ左ノ如シ

津田沼製鹽實習場

製鹽ノ事業ハ本所附近ノ地ニ於テ行フヘカラザルヲ以テ千葉縣下津田沼ニ在ル素ト農商務省製鹽試驗場ヲ引繼キテ之レヲ本所ノ實習場トセリ小田原ト同シク一定ノ期間生徒ヲ同所ニ出張セシメテ製鹽ノ方法ヲ實習セシム

(三) 養殖科

養殖科ニ於テハ各種水族ノ性質各相異ナルヲ以テ一個ノ實習場ヲ以テ満足スルコト能ハス故ニ本所ニ於テハ各實習場ニテ採集シタル材料ヲ用ヒテ教授ヲナスヲ主眼トシ尙各實習場ニ於テ實地ノ研究技術ノ練習ヲナサシム

淡水養殖ニハ東京市深川區冬木町養魚實習場ニ於テ鯉、鰻、鰻等ヲ府下北多摩郡宮澤假實習場ニ於テ鮎ヲ朽木縣日光中宮祠湖假實習場ニ於テ鱒ノ養殖ニ就キテ實習セシノ實地見聞ノ爲メ時々生徒ヲ北海道新潟縣下等ノ地方ニ派遣セシムルコトアリ
 淺海養殖ニハ品川灣ニ於テ海苔、千葉縣八幡ニ於テ牡蠣其他貝類養殖上ノ實習ヲナサシムト雖モ實地見聞ノ爲メ時々生徒ヲ廣島岡山其他ノ地方ニ派遣スルコトアリ
 洋海性ノ魚類及ヒ藻類ニ關シテハ房州白濱ニ於テ比目魚、龍蝦、搗布、若布等ニ就キテ其生理、發生、蕃殖、人工孵化等ノ實驗ヲナサシム又千葉縣下鷹ノ島及沖ノ島ヲ本所ノ所轄トセシヲ以テ將來同所ニ於テモ亦養殖上ノ實習場ヲ開設センコトヲ期セリ

第四章 實習

一、本所實習

第二學年漁撈科ニ於テハ網具及釣具ノ構成、漁船、ボート運用等製造科ニ於テハ食品工用品、藥用品ノ製造及定性定量分析、養殖科ニ於テハ解剖及發生學實驗、海苔及貝類養殖等ノ實習ヲナサシム

二、所外實習

第三學年ニ於テハ本所實習ノ外技術ヲ練磨セシムルタメ別ニ實習場ヲ設ケ練習セシメタル科目左ノ如シ

漁撈科

假實習場 千葉縣下館山町

實習船 快鷹丸

實習科目

- 一 網具構成(製作、製圖、設計)
- 一 釣具構成(製作)
- 一 漁船及「ボート」運用
- 一 網漁。流網、刺網、揚操網、棒受網、手操網、打瀬網等
- 一 釣魚。鮪、鯉魚、鯖、鰻、柔魚、鰻等(曳繩手釣)
- 一 實習船快鷹丸ニ於テ左ノ實習ヲナス
- 運用法 航海術

網漁 流網(朝鮮海峽)巾着網(高知沖ヨリ三宅島沖合)トロール(大楊子江砂堆)
釣漁 浮延繩底延繩(三宅島ヨリ小笠原及硫黃島附近)
捕鯨 (金華山沖)

其他千葉縣下御宿ヨリ銚子地方沿岸ニ於テ漁撈ニ關スル實地ノ指導ヲナス

一 氣象觀測

一 漁場調査

一 漁業經營

製造科

實習場 神奈川縣下小田原町

實習科目

一 食品罐詰、乾製品、薰魚、節類、鹽藏魚、海苔、混和品、酢漬、醃醬品等

一 肥料(搾粕、乾鰯、荒粕等)

一 工用品(魚油、魚蠟、膠材料ノ採集、海獸皮採集)

一 藥用品(沃度、肝油類)

其他廣島縣下ニ於テ製鹽愛知縣下中山及篠島ニ於テ肥料及鰹油漬ノ實習長野縣下ニ於テ凍瓊脂製造法ノ實地指導ヲナス
一 製造事業經營

養殖科

東京市深川區冬木町(人造池ニ於ケル養殖)

埼玉縣下三田ヶ谷(同上)

栃木縣 日光中宮祠(人工孵化)

神奈川縣下保土ヶ谷(鹹水池ニ於ケル養殖)

千葉縣下八幡町(淺海ニ於ケル養殖)

實習科目

一 淡水養殖(鮭、鱒、鮎、鯉、金魚、鰻、鰻等)

一 鹹水養殖(鰻、牡蠣、海苔等)

一 發生學實驗、解剖實驗

其他廣島縣下及千葉縣下ニ於テ養蠟法新潟縣下ニ於テ鮭人工孵化法府下多

氣象觀測

摩川ニ於テ鮎人工孵化法千葉縣下白濱村ニ於テ比目魚人工孵化法ノ實地指導ヲナス

一 養殖事業經營

二、氣象觀測

氣象ノ觀測ハ水産上最モ必要ナルヲ以テ本所ニ於テハ之レガ學理ヲ授ケ併セテ氣象觀測法ヲ習熟セシム其實習科目左ノ如シ

- 一 氣壓ノ變化
- 一 溫度ノ變化
- 一 雨量及蒸發
- 一 空氣ノ濕度
- 一 風力及風向
- 一 雲形 雲量
- 一 日照時
- 一 天氣豫測

第五章 生徒

一、在學生徒姓名 (明治三十七年五月現在)

本科

(百十一名)

漁撈科

(四十八名)

第一學年 (十八名)

香月 一保	熊本平民	河野 光三	山口平民
東郷 保一	宮城平民	三上 守二	廣島平民
野間口 兼美	鹿兒島士族	登坂 高三	山形士族
芳賀 奈七郎	岩手平民	柳 悅多	東京士族
橘川 章	宮城士族	鈴木 誠造	福島平民
和田 美穗	宮崎平民	鎌田 武造	青森平民
榎本 彈正	香川平民	山田 純太郎	東京平民
笠松 彌一	東京平民	杉浦 保吉	埼玉平民
田中 登	三重平民	奧津 興美	群馬士族

在學生徒姓名

第二學年 (十八名)

寺島榮吉	新潟平民
林田甚八	長崎平民
久保雷之助	愛媛平民
上枝平五郎	香川平民
村上素	宮城士族
山根左中	島根平民
福井千代馬	高知士族
川口錄一	岐阜士族
伊藤藤朗	愛知平民

第三學年 (十二名)

水間春吉	德島士族
堀江英一	廣島平民
中村源一郎	鹿兒島平民
石川良卓	福井平民
川添友志	鹿兒島平民
南部寬	福井士族
尾上平藏	鹿兒島平民
木暮彌七	群馬平民
金益相	韓國
田中榮定	長崎士族
中島秀男	島根士族
寬多記	茨城士族

製造科 (五十二名)

第一學年 (二十四名)

朝長理一	長崎士族
山岸留之助	宮城平民
小松重利	高知平民
谷兵三郎	德島平民
赤坂仁三郎	北海道平民
柴田匡一	岐阜士族
緒賀陸次郎	愛媛平民
池內清	愛媛士族
山內豐彦	茨城士族
名村竹雄	福井士族
篠原睦造	島根平民
高崎達之助	大阪平民

在學生徒姓名

長井貫吾	新潟平民
美代清信	鹿兒島士族
杉江謙治	石川士族

喜代美榮一郎	長崎士族
中山克己	高知平民
宗像浩次郎	廣島平民
福島政吉	東京士族
立花榮吉	東京平民
上田壯一	山口平民
久志本欣之祐	三重平民
岩井龜治	高知平民
三森富雄	福島平民

中村平	福岡平民	寺島彌壽彦	岡山士族
仲野九郎	兵庫平民	内田耕	東京平民
立川卓逸	新潟士族	大槻清三	東京平民
第二學年 (十九名)			
弓削萬之進	鹿兒島士族	杉山恒吉	德島士族
益滿行綱	鹿兒島士族	武季作	東京士族
河西延次郎	香川平民	宇加治文雄	茨城平民
木村金太郎	東京士族	長屋熊槌	廣島平民
坂井貞次郎	新潟士族	林碌郎	大阪平民
伊東二郎	茨城平民	安永宗治	福岡平民
粟屋協二	愛知士族	鈴木幸太郎	靜岡平民
馬場清止	宮城士族	國島徹	北海道士族
松坂省輔	山口平民	牧野健次郎	靜岡平民
江島悅次郎	福岡士族		

第三學年 (九名)

前田良治	山形士族	森萬次郎	東京平民
河村尊雄	滋賀平民	白石庸次郎	新潟士族
安藤俊吉	兵庫平民	堀田嘉吉	岩手平民
松山秀雄	熊本士族	勢島莊太郎	福岡平民
鍋島熊道	高知平民		

養殖科 (十一名)

第一學年 (五名)

加藤次一	廣島平民	前田峯治	山形士族
萩原實治	兵庫平民	鐘夕江東作	佐賀士族
井上惠吉	東京士族		

第二學年 (四名)

西山伊六	佐賀士族	東道太郎	東京士族
平木治	福岡平民	近藤利助	福島平民

在學生徒姓名

第三學年 (二名)

丸川久俊

島根士族一

椎厚廣男

鹿兒島士族

遠洋漁業科 (八名)

第一學年 (二名)

黒木圓太

福岡平民一

第二學年 (二名)

快鷹丸乘組

佐藤正孝

山形平民

出征

松田

林

宮崎士族

第三學年 (五名)

在米國

田中仁吉

吉

島根平民

大島丸乘組

長内泰助

助

岩手士族

海王丸乘組

戸田半平

平

静岡平民

第一千歳丸乘組

前田春水

水

東京平民

第三千島丸乘組

松尾秀夫

夫

長崎士族

研究科 (六名)

漁撈科 (二名)

明治三十四年一月入學

鯉巾着網構成

吉永貴八郎

長崎士族

明治三十五年七月入學

纖維ニ就テ

日高靖

靖

宮崎平民

製造科 (二名)

明治三十四年五月入學

罐詰内容物ノ變化ニ就テ

小野寺克彦

宮城平民

明治三十五年四月入學

罐詰内容物ノ化學的變化

岩城宣郎

静岡平民

養殖科 (二名)

明治三十三年四月入學

牡蠣ノ養殖

今野虎吉

福島平民

在學生徒姓名

合計	
一八	五三
一八	外一五二
一三	九三
二四	八二六〇
一九	九三六三
九	二二二
五	一四七六三〇
四	外一
二	一一
二	一一
五	三二四
六	一〇五二八二
一〇	外一
一三五	一三五

七十二

三、在學生徒年齡表 (明治三十七年六月)

本科

學年	學別	最高年齡	最低年齡	平均年齡
第一學年	漁撈科	二三年六月	一八年八月	二〇年一月
	製造科	二四年七月	一八年六月	二〇年一月
第二學年	漁撈科	二五年一月	一九年九月	二二年一月
	製造科	二五年九月	一九年六月	二二年一月
第三學年	漁撈科	二七年三月	二〇年三月	二四年七月
	製造科	二七年五月	二〇年八月	二四年七月
養殖科		二二、五	二一、二	二二、三

遠洋漁業科

學年	最高年齡	最低年齡	平均年齡
第一學年	二四年九月	二四年九月	二四年九月
第二學年	二四年七月	二三年九月	二四年七月
第三學年	二六年二月	二五年六月	二五年六月

研究科

最高年齡	最低年齡	平均年齡
二七年五月	二三年三月	二四年〇月八

現業科

最高年齡	最低年齡	平均年齡
二六年一月	二〇年三月	二三年八月〇

四、遠洋漁業練習科乘船表 (明治三十七年六月現在)

在學生徒年齡

七十三

姓名	乘組船名	漁業ノ目的	航海船質	網具	長	總噸數	登簿噸數	製造年月	定繫港	船主
佐藤 正孝	快應丸	近海航船	木	二櫓ス	九三六〇	—	—	三十四年	武藏國東京	水産講習所
長内 泰助	大島丸	近海航船	同	一ナ	七〇二〇	六三八	六〇〇五	三十二年	上總國勝浦	千葉遠洋漁業株式會社
戸田 半平	王海丸	同	同	同	八六六〇	九三二	八七六二	二十七年	渡島國函館	帝國水産株式會社
前田 春水	第一千歳丸	同	同	同	七四七〇	八〇一三	七五三三	三十一年	武藏國東京	水上助三郎
松尾 秀夫	第三千島丸	同	同	三櫓ス	七六三〇	七二〇二	六七七〇	二十二年	安房國館山	房總遠洋漁業株式會社

五、卒業生及其就職 (〇ハ優等卒業●ハ死亡者) (明治三十七年六月調)

(一) 本科 (百六十四名)

漁撈科 (七〇名)

〇明治三十一年四月卒業(十三名)

自家營業
岡山縣水産試驗場技手
海外實業練習生(在英國)

菅谷毅 茨城平民
内田治三郎 山口平民
家入四直 福岡士族
武藤禮二 宮崎士族

岩手縣水産學校教諭

加藤勢三 三重平民

宮城縣牡鹿郡水産學校教諭

龜井小市 山口平民

海外實業練習生(在那威)

南摩紀麿 東京士族

石川縣技手

木村廣三郎 石川士族

外務省留學生

村田乙三郎 東京士族

自家營業

橋本猪太郎 熊本平民

臺灣澎湖島測候所主任

庄司與一郎 石川平民

宮崎縣飮肥實業學校水産科教師

長友茂三郎 宮崎士族

自家營業

福田久橘 長崎士族

〇明治三十二年四月卒業(十五名)

山口縣水産試驗場技手

坂本庄太郎 佐賀平民

自家營業

山下節治 長崎平民

秋田縣水産試驗場技手

茂又忠三 秋田士族

自家營業

松崎彌市 鹿兒島平民

卒業生及其就職

朝鮮海水產組合視察員(木浦支部詰) 學生

第二千歲丸乘組

朝鮮海水產組合視察員(元山支部詰)

千葉縣技手

帝國水產株式會社(海王丸乘組)

北海道函館支廳技手

山口縣豐浦郡水產巡廻教師

島根縣水產聯合會議所技手

自家營業(製網業)

宮城縣技手

○明治三十三年四月卒業(二名)

米國留學

福井縣水產學校教諭

樋口律太郎

長崎平民

小林音八

新潟平民

石野敬之

千葉平民

大庭弘雅

福岡平民

古田正知

岐阜士族

高橋瀏二

岡山平民

下國沖助

北海道士族

宮下知一

東京平民

大谷正猛

高知士族

佐々木一郎

廣島平民

矢野新吉郎

熊本士族

○中村嘉壽

鹿兒島平民

久保深董

青森平民

研究科在學

出征

天祐丸乘組

宮崎縣水產試驗場

遠洋漁業練習生(米國捕鯨船アレイスノール號乘組)

出征

茨城縣水產試驗場技手

香川縣水產試驗場技手

遠洋漁業練習生(出征)

富山縣水產講習所技手

○明治三十四年四月卒業(八名)

北海道水產試驗場技手

岩手縣立水產學校教諭

遠洋漁業練習生(大島丸乘組)

吉永貴八郎

長崎士族

森藏助

鹿兒島士族

小金丸增次郎

福岡平民

小島才一

神奈川平民

田中仁吉

島根平民

小木原元吉

鹿兒島士族

須田正治

山形士民

津田美津彦

福岡士族

松田林

宮崎士族

田谷英

石川平民

○本間平八

山形平民

石川伸治

石川士族

長內泰助

岩手士族

卒業生及其就職

兵役

遠洋漁業練習生(第三千島丸乘組)

和歌山縣水產試驗場技手

遠洋漁業練習生(第一千歲丸乘組)

福島縣相馬郡水產巡廻教師

○明治三十五年四月卒業(五名)

高知縣水產試驗場技手

海外實業練習生(在英國)

秋田縣水產試驗場技手

遠洋漁業練習生(快鷹丸乘組)

德島縣撫養郡水產巡廻教師

○明治三十六年七月卒業(七名)

水產講習助所手

大川辰藏 兵庫平民

松尾秀夫 長崎士族

喜多山昇來 愛媛士族

前田春水 宮城平民

荒卯忠 福島士族

小島省吾 石川士族

日高靖 宮崎士族

額田喜一 香川平民

佐藤正孝 山形平民

元木淑人 德島平民

山田廣次 福岡平民

稻見彌一郎 北海道平民

石川縣水產試驗場技手

千葉縣水產試驗場技手

研究科在學

遠洋漁業科在學

製造科 (九十六名)

○明治三十一年四月卒業(三十四名)

茨城縣水產試驗場技手

在米國

三井物產會社

千葉縣水產試驗場技手(第一支場在勤)

海外實業練習生(在米國)

水產講習所技手

卒業生及其就職

內田四郎七 福井平民

關根磯吉 東京平民

岩田雄 京都平民

黒木圓太 福岡平民

宮田光 京都士族

大津吉之助 茨城平民

平野友安 千葉平民

舊姓沖長谷川作次 石川平民

關原東太 千葉平民

廣瀬常八 香川平民

舊姓新名高松勝重 三重士族

小野辰次郎 東京士族

自家營業

秋田縣技手

岩手縣立水產學校教諭

和歌山縣水產試驗場技手

岩手縣立水產學校教諭

大阪土井罐詰製造所技師

陸軍通譯(第四師團第七旅團司令部付)

宮崎縣水產試驗所技手

東京府技手(出征)

千葉縣水產試驗場技手(出征)

臺灣臺南北門嶼專賣支局

自家營業

高知縣水產試驗場技手

大和 和太郎 東京平民

堀江 銀之助 東京士族

吉川 尙方 東京士族

中西 秀男 三重士族

古賀 駿輔 佐賀士族

中島 庸三 長野平民

舊姓佐藤 牧野 左馬三 大分平民

宮木 周市 山口平民

前田 庄五郎 兵庫平民

大和地 由太郎 千葉平民

岡本 賢一 大分士族

西 保 熊本士族

藤村 守一 高知士族

● 三島 拙郎 島根士族

愛媛縣水產試驗場技手

福井縣水產學校教諭(出征)

旭組罐詰製造所技師

出征

茨城縣水產試驗場技手

千葉縣水產試驗場技手

小田原魚商粗合罐詰製造所技師

長崎稅關吏

佐賀縣水產巡廻教師

出征

吉田 三俊 大坂士族

駒澤 幸一 石川士族

濱元 四郎太郎 富山平民

● 舊姓關根 松生 猪三男 福岡士族

● 田所 清雄 茨城平民

北川 克郎 高知士族

小倉 順三 千葉平民

● 本郷 益雄 東京士族

今井 次郎 神奈川平民

山本 廣三 大分士族

白石 靜 鹿兒島士族

● 舊姓廣瀬 木原 方吉 佐賀士族

守田 貞三 大分平民

○明治三十二年四月卒業(二十二名)

卒業生及其就職

同文館教授(在清國上海)

宮崎縣技手兼水產試驗場技手場長

千葉縣鴨川水產補習學校

水產講習所技手(出征)

愛知縣知多郡水產巡廻教師

佐賀縣水產巡廻教師

石川縣水產講習所技手

新潟縣水產講習場技手(出征)

青森縣水產試驗所技手

自家營業

千葉縣遠洋漁業株式會社

○舊姓誠一 小川 清一 佐賀士族

○中村 平八 德島平民

小石 季一 秋田士族

小倉 恒介 山口士族

佐々木 繁太郎 香川平民

大木 森三郎 東京士族

光增 健三郎 佐賀士族

井關 正行 和歌山平民

府中 喜八郎 石川平民

黑岡 安定 東京平民

辻 好司郎 石川士族

小岩 井治世 青森士族

廣 戶 勝藏 島根平民

富 樫 恒 千葉士族

自家營業(鱈肝油製造)

出征

在米國

臺灣打狗專賣支局

○明治三十四年四月卒業(十五名)

島根縣水產試驗場技手

海外實業練習生(在米國)

茨城縣大津町水產學校教諭

千葉縣水產試驗場技手(第一支場在勤)

西堀 良造 北海道平民

●北野 宇佐吉 德島平民

●藍野 一男 千葉平民

●宮島 伊望 千葉平民

●肝付 兼昌 鹿兒島六族

府 玻 健藏 石川士民

市 橋 丁九 東京華族

澁 谷 源七 宮城平民

○水野 幸次郎 愛知平民
舊名長作

一 宮 弘人 長崎士族

伊藤 哲太郎 茨城平民

齋藤 七郎 千葉平民

吉田 虎藏 德島平民

自家營業(海產物問屋)

北海道廳技手

在米國

自家營業

山形縣技手

富山縣水產講習所技手

舊姓大市

室伏俊五郎

三重平民

久保茂助

山口平民

●久木田勝馬

鹿兒島士族

阿部轍

宮城平民

大西珍平

岩手平民

久谷歡一郎

島根平民

○濱田直作

富山平民

金高喜一郎

千葉平民

鹽田愛隣

千葉平民

浦山五作

石川平民

海外實業練習生(在清國)

○明治三十四年四月卒業(九名)

中井國太郎

愛媛平民

愛媛縣立農學校教諭出征

朝比奈雪

靜岡士族

水產講習所助手

船橋晋吉

神奈川平民

秋田縣水產試驗場技手

水產講習所助手

松原榮

兵庫平民

野元俊一

鹿兒島士族

小見山富市

熊本平民

小野寺克彦

宮城平民

池田熊之助

鹿兒島士族

千葉幸三郎

東京士族

兵役

○明治三十五年四月卒業(三名)

岩城宣郎

靜岡平民

臺灣澎湖島廳技手

久保田信治

兵庫平民

山口縣水產試驗場技手

中野速吉

德島平民

○明治三十六年七月卒業(十三名)

水產講習所助手

松尾靈彦

愛知平民

北海道水產試驗場技手

內村可一

德島平民

日本遠洋補鯨株式會社

舊名與吉
菊地健

岩手士族

卒業生及其就職

三重縣水産試験場技手

静岡縣水産巡廻教師

大阪土井罐詰製造所技師

水産講習所助手

茨城縣土浦小沼罐詰製造所技手

北海道水産試験場技手

自家營業

一年志願兵

德島縣水産試験場技手

養殖科 (三十二名)

○明治三十一年四月卒業(九名)

藤田組養殖部主任

出征

酒井惣次郎 三重平民

宗熊 大分士族

野田百人 熊本土族

石原重良 山形士族

志村彦藏 山形士族

岩本正孝 長野士族

●吉川秀之 石川士族

宮内友吉 鹿兒島平民

渡邊安忠 大分士族

淺井鎌吉 東京士族

藤田政勝 兵庫士族

大石芳三 佐賀士族

秋田縣技手(出征)

自家營業

自家營業

農商務技手

熊本縣水産試験場技手

千葉縣水産試験場技手(船橋養殖場在勤)

茨城縣水産試験場技手

○明治三十二年四月卒業(五名)

三重縣水産試験場技手

日本銀行員

滋賀縣水産試験場技手

廣島縣水産試験場技手

○明治三十三年四月卒業(八名)

卒業生及其就職

淺井長三郎 福島平民

櫛部新藏 山口平民

冬木徳次郎 千葉平民

坂井安三郎 佐賀平民

吉川諄 埼玉平民

長島幸吉 千葉平民

高橋重太郎 岩手平民

○川端重五郎 三重平民

山本開作 神奈川平民

内山龜五郎 福井平民

須田可也 東京平民

壁谷可也 東京平民

山口縣水產試驗場技手

○石田五一郎 山口平民

水產講習所助手

○今野虎吉 福島平民

香川縣水產試驗場技手

櫻田廣吉 秋田士族

北海道水產試驗場技手

肥後了一 鹿兒島士族

茨城縣水產試驗場技手

秋山永次 東京士族

山口縣吉敷郡水產巡廻教師

伊藤俊治 千葉平民

静岡縣水產試驗場技手

小野佐久雄 東京士族

福井縣水產學校教諭

緒方茂十郎 大分士族

○明治三十四年四月卒業(三名)

永島養魚場顧問秋田園主

長島八郎 神奈川平民

德島縣水產試驗場技手

須田義二郎 山形士族

北海道水產試驗場技手(出征)

伊達健吉 東京華族

○明治三十五年四月卒業(三名)

岩手縣水產學校教諭

戸井田盛藏 新潟平民

千葉縣水產試驗場彌陀(第一支場詰)

内田佐太夫 千葉平民

大日本水產會(養魚試驗場在勤)

前川鯉龜太郎 東京平民

○明治三十六年七月卒業(四名)

北海道水產試驗場技手(千歲支場在勤)

○越田德次郎 東京平民

一年志願兵

河合嚴 愛知平民

一年志願兵

山下平造 兵庫平民

水產講習所助手

山本由一 東京士族

(二) 現業科

漁撈科

○明治三十三年三月卒業(巾着網專修)(五名)

自家營業

大橋直吉 静岡平民

自家營業

戸田圓次 高知平民

自家營業

土井常吉 新潟平民

自家營業

紙子次作 石川平民

卒業生及其就職

自家營業

製造科

多屋勝四郎

和歌山平民

九十

○明治三十一年十一月卒業(罐詰專修)(五名)
鹿兒島縣水産試験場

河野

嚴

宮崎平民

自家營業

森義直

直

京都士族

自家營業

廣瀨

宗義

鹿兒島平民

石川縣水産會幹事

加藤

明二

秋田平民

○明治三十二年十二月卒業(罐詰專修)(五名)

鹽井

與八

石川平民

自家營業

內田

幾次郎

島根平民

自家營業

中村里

次郎

愛知平民

自家營業

松浦

善市

熊本土族

自家營業

菅波

仙之助

福島平民

松坂

豐隆

富山平民

○明治三十三年十二月卒業(罐詰專修)(五名)

愛知縣罐詰製造所

村田

新五郎

愛知平民

滋賀及近江罐詰製造所

古川

德吉

滋賀平民

在米國

及川

鼎壽

宮城士族

自家營業

山田

德松

宮崎平民

自家營業

梁瀨

弘

長崎士族

○明治三十四年十二月卒業(罐詰專修)(五名)

自家營業

鈴木

兼助

愛知平民

自家營業

宮內

喜一

鹿兒島平民

北海道水産試験場技手

小松

由平

千葉平民

自家營業

菅原

養藏

宮城平民

自家營業

村江

保翼

長崎士族

○明治三十五年十二月卒業(罐詰專修)(六名)

自家營業(水産製造販賣業)

山田

忠五郎

東京平民

卒業生及其就職

九十一

自家營業

荒井元吉

和歌山平民

京都府水産講習所

糸井藤吉

京都平民

自家營業

中尾千代之助

鹿兒島平民

自家營業

里見時之助

山口平民

青森縣廣高組罐詰製造所

米田榮

青森平民

○明治三十六年十二月卒業罐詰專修(六名)

三重縣水産試驗場助手

井上三次郎

三重平民

長崎縣水産試驗場助手

金子房治

千葉士族

自家營業

花見七治

北海道平民

新潟縣水産試驗場助手

河合音治

愛知平民

自家營業

田村忠太夫

岩手平民

自家營業(清國上海)

黃桂芬

清國

○明治三十二年三月卒業魚油魚蠟沃度專修(五名)

自家營業

昆良人

岩手平民

三重縣志摩郡役所書記

自家營業(沃度製造業)

自家營業

自家營業

○明治三十三年三月卒業魚油魚蠟沃度專修(五名)

田中清之助

三重平民

山口三之助

千葉平民

越瀨市松

和歌山平民

佐藤義厚

茨城平民

宮津吾次

山口平民

杉本傳太郎

靜岡平民

畑谷丑太郎

北海道平民

佐藤漁太郎

宮城平民

赤平卯十郎

青森平民

自家營業

○明治三十四年三月卒業魚油魚蠟沃度專修(三名)

自家營業

自家營業

自家營業

田中富佐

福井平民

木高金之助

千葉平民

松本龜太郎

高知平民

卒業生及其就職

○明治三十五年十二月卒業(魚油、魚蠟、沃度專修)(四名)

自家營業	山口 太助	佐賀 平民
節製造業(在對馬)	熊谷 伊三郎	福岡 平民
高知縣浮津水產補習學校長	池內 林太郎	高知 平民
自家營業	森崎 茂樹	静岡 平民

○明治三十六年四月卒業(魚油、魚蠟、沃度專修)(四名)

北海道水產試驗技手	小松 由平	千葉 平民
自家營業(水產製造販賣業)	齋藤 玉治	愛知 平民
橫濱魚油株式會社	前田 隆次郎	愛知 平民
青森縣廣高組罐詰製造所	米田 榮	青森 平民

○明治三十六年十二月卒業(魚油、魚蠟、沃度專修)(五名)

自家營業	砥板 源三郎	福岡 平民
自家營業	古川 九滿次	熊本 士族
自家營業	坂口 榮太郎	静岡 平民

自家營業

自家營業

○明治三十四年十月卒業(鯉節其他節類專修)(二名)

自家營業	島山 吉雄	宮城 平民
高知縣水產試驗場助手	大久保 直太郎	高知 平民
自家營業(水產製造販賣業)	大黒 一誠	高知 平民
	齋藤 初治	長崎 平民

○明治三十五年十月卒業(鯉節其他節類專修)(五名)

自家營業(水產製造販賣業)	山本 荒太郎	和歌山 平民
自家營業(節製造業)	山下 藤三郎	鹿兒島 平民
自家營業	秦 信之助	島根 士族
節製造業(在對馬)	熊谷 伊三郎	福岡 平民
青森縣廣高組罐詰所	米田 榮	青森 平民

○明治三十六年十二月卒業(鯉節其他節類專修)(三名)

自家營業	安里 積勳	沖繩 平民
在清國	市川 忠吉	山形 平民

卒業生及其就職

自家營業

(三) 遠洋漁業練習科

○明治三十三年七月卒業(一名)
水産講習所快鷹丸運轉士

○明治三十四年七月卒業(二名)

農商務技手

海外實業練習生(在諾威)

○明治三十四年八月卒業(一名)

石川縣技手

○明治三十五年二月卒業(二名)

三重縣南牟婁郡水産巡廻教師

房總遠洋漁業株式會社

○明治三十五年七月卒業(三名)

山岡 則重 高知士族

九十六

舊莊宮澤
田 九萬男 香川士族

藤田 勘太郎 島根平民

南摩 紀磨 東京士族

木村 廣三郎 石川士族

志村 次郎 東京士族

高原 剛太郎 福岡士族

自家營業

第三千歲丸乘組

島取縣水産試驗場技手

○明治三十六年一月卒業(一名)

帝國水産株式會社(海王丸乘組)

○明治三十六年十月卒業(一名)

水産講習所助教

○明治三十七年五月卒業(一名)

天祐丸乘組

小丸金 増次郎 福岡平民

(四) 水産教員養成科

○明治三十年十二月卒業(十五名)

靜岡縣加茂郡田子實業補習學校訓導兼校長

愛媛縣農學校教諭

市原 佐太郎 高知士族
羽生 辨之進 愛知士族

卒業生徒及其就職

九十七

北海道龍田郡龜田尋常高業小學校長
 靜岡縣富士農林學校助教諭
 新潟縣刈羽郡視學
 長崎縣師範學校教諭
 和歌山縣和歌山中學校教諭
 朝鮮海水產組合視察員(在韓國釜山)
 京都府師範學校豫備校教諭
 茨城縣若松水產學校教諭兼校長
 茨城縣屬(第四課)
 水產講習所助教兼書記
 島根縣技手

○明治三十六年四月卒業(十名)

大竹 敬造	北海道士族
加藤 伊砂吉	靜岡士族
片田 久治郎	新潟士族
加藤 登太郎	山形士族
正富 彌藏	岡山士族
正林 英雄	長崎士族
秋保 知次	京都士族
佐々木 武治	青森平民
阪田 良輔	福井平民
宮崎 賢一	長崎士族
●滿岡 彦三	佐賀士族
平山 嘉右衛門	岩手平民
關 菊治	秋田平民

西原 佐一	愛媛平民
高江 次郎八	熊本平民
長内 清吾	青森平民
松波 虎之助	和歌山平民
佐藤 暹	岡山平民
笹子 治	千葉平民
喜多川 良吉	東京平民
志水 清	兵庫士族
篠原 直衛	廣島平民
森川 萬藏	福井平民

熊本縣天草郡水產補習學校訓導兼校長
 靜岡縣加茂郡三濱水產補習學校訓導兼校長
 熊本縣玉名郡長州水產補習學校訓導兼校長
 千葉縣水產試驗場
 三重縣崎島水產補習學校訓導兼校長
 靜岡縣駿東郡農林水產學校教諭
 宮城縣本吉郡水產學校教諭
 秋田縣八森岩館水產補習學校訓導兼校長

六、卒業生徒狀況

卒業生徒數一覽表 (明治三十七年六月調)

卒業生道府縣別

外 區	海東 區北	區 海 南 西
長 岐 滋 山 奈 栢 群 埼	北	德 高 宮 沖 鹿 熊 佐 長
	海	島
野 阜 賀 梨 良 木 馬 玉	道	島 知 崎 繩 島 本 賀 崎
-	二	- 四 四 二 - 一 五
二	一	五 二 六 三 四 -
-		- 二
二 - -	三	五 三 四 - 一 五 七 六
		六 二 - 一 四 二 - 一 三
-	二	- 二
	一	- 一 二
二 - - -	六	五 〇 六 - 一 七 七 九 -

百三

	區 海 內	區 海
福	大 兵 香 岡 廣 愛 山 大	秋 山 新 石 富 福 京 鳥
岡	阪 庫 川 山 島 媛 口 分	田 形 瀉 川 山 井 都 取
六	- - - - - 二 -	- 三 - 五 - 二
一	- 三 二 - 三 六	- 二 七 二
	二 - 二 -	- - - -
七	- 六 三 - - 二 七 八	三 六 二 三 二 二 二
二	- - -	-
三	二	- - - 二 - - 二
	- 二 - -	- - - 二 -
二	一 七 四 四 三 三 九 八	五 八 四 五 三 五 五

百二

外國	清	計	六〇	九六	三三	一八八	七三	一三	二五	二九九
----	---	---	----	----	----	-----	----	----	----	-----

卒業生就職狀況一覽表 (明治三十六年七月調)

科別	官廳		水産講習所		水産其他學校		會社及商會		自家營業		學生		在海外兵役未定死亡合計
	官廳	水産講習所	水産其他學校	會社及商會	自家營業	本所	其他						
本漁撈科	八	一二	四	四	七	九	一	五	三	七	一〇	八	六〇
製造科	四	二七	六	九	七	一	八	三	一〇	八	三	九六	三二
養殖科	二	一八	二	四	二	一	一	一	一	一	一	一	一
計	二四	五七	一二	一七	一六	九	一	一三	一三	一八	八	一八八	三二
現業	巾着網	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
油蠟沃度	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
鯉節類	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
計	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
遠洋漁業練習科	三	三	一	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一
教員養成科	三	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
總計	三一	七〇	二七	三〇	六九	九	一	一六	一三	二三	一〇	二九九	七三

第六章 試驗部

試驗部ノ事業成績ハ別ニ編成シテ報告スルヲ以テ茲ニ略ス

學友會

德操ヲ研礎シ體育ヲ完全ナラシムルノ目的ニヨリ學生相謀リ本所監督ノ下ニ開會セルモノニシテ會員ノ會費及他ノ寄附金ヲ以テ其經費ヲ支フ本會ハ學藝部運動部ノ二部ニ分チ每學期一回大會ヲ毎月一回談話會ヲ開キ或ハ知名ノ士ヲ聘シ或ハ本所教官ノ講演ヲ乞ヒ生徒各自制裁ノ下ニ學生ノ美風ヲ發揚センコトヲ期スルモノナリ

水産講習所學友會規則

第一條 本會ハ智德ヲ磨キ體力ヲ練リ一致協力以テ美風ヲ發揚センコトヲ期ス

水産講習所學友會規則

第二條 本會ハ水産講習所學友會ト稱ス

第三條 本會ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス

通常會員 本所在學生徒

特別會員 本所教職員及本所ニ縁故アルモノ

名譽會員 本會ニ功勞アルモノモシクハ名望アルモノニシテ會長ノ推撰ニヨル

第四條 本會ニ左ノ二部ヲ置ク

學藝部 運動部

但シ各部ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 本會ヲ統理ス

部長(各部)一名 各其事務ヲ監理ス

幅部長(同)一名 部長ヲ補佐ス

會計 二名 本會ノ出納ヲ監理ス

委員 若干名 各部ノ雜務ヲ取扱フ
專務委員 委員ノ互撰ニヨリ各部三名ヲ置キ各部ノ雜務ヲ取扱ヒ會計ヲ補佐ス

第六條 本所々長ヲ會長トシ部長副部长及會計ハ本所職員中ヨリ通常會員ノ選舉ニ會長ヲ之ヲ任ジ委員ハ通常會員ノ互選ニヨリ會長之ヲ命ズ

第七條 部長副部长及會計ノ任期ハ各一ケ年トシ委員ノ任期ハ大會ヨリ次大會マデトシ再選ヲ妨ス

第八條 本會ハ每學期一回大會ヲ開ク

但シ會員拾名以上ノ申出ニヨリ會長ノ認可ヲ得テ臨時大會ヲ開クコトヲ得

第九條 本會ノ經費ハ通常會員ノ會費及ビ寄附金ヲ以テ支辨スルモノトス

第十條 通常會員ノ會費ハ一學年間金壹圓五拾錢トシ各學期ノ初メニ於テ分納スルモノトス

第十一條 本會經費ノ支出ハ大會ニ於テ決議シタル豫算ニ從ヒ臨時ノ支出ハ役員會ノ評決ニヨリ定ム

第十二條 本會ノ規則ハ大會ノ決議ヲ經會長ノ認可ヲ受クルニアラザレバ變更スルコトヲ得ズ

學藝部規程

第一條 本部ノ事業ハ左ノ如シ

談話 隔月一回

書類購讀

第二條 本部ノ委員ヲ三名トス

運動部規程

第一條 本部ノ事業ハ左ノ如シ

柔道 擊劍 球技 其他

第二條 本部ノ委員ハ三名トシ其他ハ必用ニ應ジテ臨時ニ之ヲ置クモノトス

第三條 運動及技術獎勵ノ爲メ時々競技會ヲ行フコトアルベシ

明治三十七年六月廿八日印刷

明治三十七年六月三十日發行

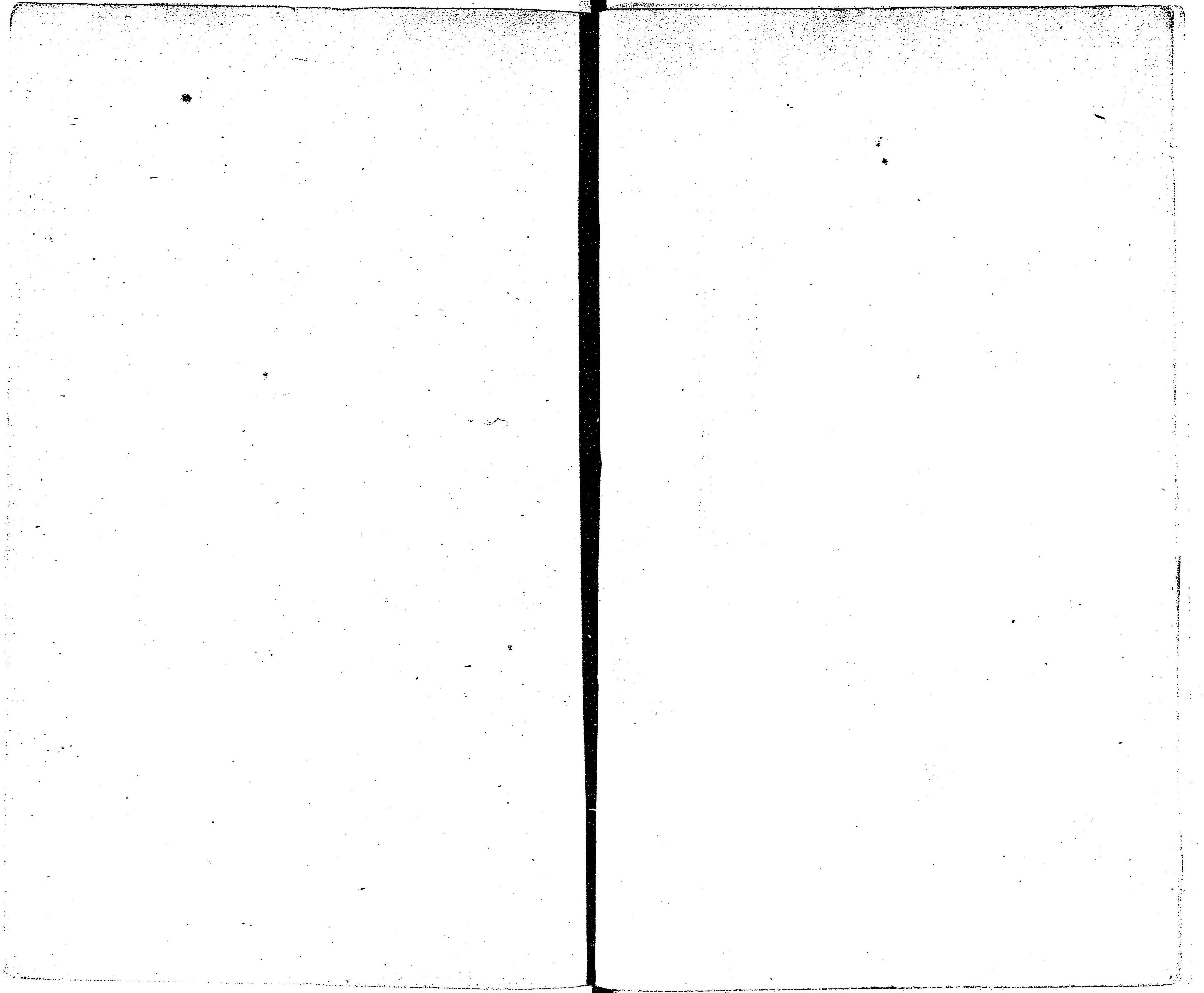
水産講習所

印刷者 門岡駒太郎

東京市芝區三田四國町
二番地一號

印刷所 會社資三田印刷所

東京市芝區三田四國町
二番地一號



100-100-100